（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年7月31日※1
（前回公表年月日：令和4年7月31日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校　文化デザイナー学院	昭和51年4月1日	荒井　真次	〒310-0026 茨城県水戸市泉町1丁目3番22号 （電話）029-303-1010
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人リリー文化学園	昭和51年1月22日	理事長 大久保博之	〒310-0021 茨城県水戸市南町2丁目3番14号 （電話）029-224-4820

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	産業デザイン専門課程	広告プロモーションデザイン学科	平成20年文部科学省告示第12号	―

学科の目的	本学科は、広告デザイン業界においてデザイナーとして就職並びに活躍できる人材の育成を目指し、グラフィックデザインやWebデザイン、雑誌編集や映像デザイン等の分野に関して専門的な教育を行うことを目的とする。
認定年月日	平成26年3月31日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2970時間	750時間	2460時間	0時間	0時間	0時間
							単位時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内数）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
180人	110人	0人	3人	19人	22人

学期制度

■1学期：4月1日～9月30日
■2学期：10月1日～3月31日

成績評価

■成績表：　有

■成績評価の基準・方法

成績基準は、80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をC、59点以下をD(不合格)とする。
成績評価は、規定課題作品、学期末試験、レポートなどの部分評価を総合して評価する。

長期休み

■学年始：4月4日
■夏　季：7月25日～8月20日
■冬　季：12月25日～1月7日
■学年末：3月16日

卒業・進級条件

■卒業条件
教育指導計画にしたがって所定の全授業科目を修得し、単位判定会議で卒業が認められた者で所定の期日までに生徒納付金を納付していること

■進級条件
教育指導計画にしたがって当該学年の必須授業科目を5割以上修得し所定の全授業科目を修得し、単位判定会議で進級が認められた者で所定の期日までに生徒納付金を納付していること

学修支援等

■クラス担任制：　無

■個別相談・指導等の対応
専任教員が担当する授業のキャリアデザインでは、毎回同じ者が担当する。
また、試験・課題・出欠・就職・学校生活についてはそれぞれの担当がいる。
長期欠席者への指導は電話確認、保護者への連絡、面談など。

課外活動

■課外活動の種類
水戸デザインプロジェクト、茨城デザイン振興協議会 講演会

■サークル活動：　無

就職等の状況※2

■主な就職先、業界等（令和4年度卒業生）
印刷会社・看板/広告制作/写真・映像/イラスト制作/販売促進・広報/WEB/アニメ制作会社/放送局

■就職指導内容
業界人を囲む会・卒業生を囲む会・就職ガイダンス・企業見学・模擬面接

■卒業者数　：　29　人
■就職希望者数　：　26　人
■就職者数　：　26　人
■就職率　：　100　%
■卒業者に占める就職者の割合　：　89.7　%

■その他
・進学1名

（令和４ 年度卒業者に関する
（令和5年5月1日時点の情報）

主な学修成果（資格・検定等）※3

■国家資格・検定/その他・民間検定等
（令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報）

資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
ウェブデザイン検定3級	①	29人	15人
Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード	③	29人	14人
Illustratorクリエイター能力認定試験スタンダード	③	29人	19人
レタリング技能検定試験3級	③	24人	12人
Photoshopクリエイター能力認定試験エキスパート	③	1人	1人
Illustratorクリエイター能力認定試験エキスパート	③	4人	3人

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。
①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
③その他（民間検定等）

■自由記述欄
水戸ユネスコ協会会長賞、水戸ホーリーホック賞、茨城デザイン振興協議会会長賞

中途退学の現状

■中途退学者　7　名　■中退率　6.4 %
令和4年4月1日時点において、在学者110名（令和4年4月1日入学者を含む）
令和5年3月31日時点において、在学者103名（令和5年3月31日卒業者を含む）

■中途退学の主な理由
（例）学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等
①方向性や適性など進路変更　②病気による社会生活・就学困難

■中退防止・中退者支援のための取組
対策として、欠席率の段階によって教職員による面談をしている。1段階指導として担当の面接、2段階指導として主任以上の職員による面接を実施している。また、課題の提出状況も把握し適切に指導出来るように、全ての規定課題（提出義務課題）については教務提出としている。経済的問題に対しても細かく配慮し、保護者との面談を行っている。奨学金や国の教育ローンなどを利用することによる資金計画について相談し、就学困難を回避している。また、昨今増えつつある精神的な病気についても出来る限り配慮することとし、安心して就学出来るように細かい面接等をしている。これらの細部にわたる「学生に対する配慮」が退学率を低くしており、「愛情をもって接する」という一人ひとりのスタッフのスピリッツにより支えられている。

経済的支援制度

■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　有
※有の場合、制度内容を記入
「AO入学」・・・学力だけでなく、本校の掲げる学生像（アドミッションポリシー）と照らし合わせ、好きなことを学び職業に活かしたいという熱意や職業理解などを作文や面接で総合的に判断する入学方法。プレスクール無料、入学選考料免除(通常15,000円が無料)
「指定校推薦入学」・・・デザインの分野に強い興味と熱意があり、入学を希望する者が本校の定める基準を満たし高等学校の推薦を受けた場合、高等学校との信頼関係に基づき優先的に選考を行う指定校推薦による入学方法。入学選考料免除(通常15,000円が無料、入学金5万円免除(通常150,000円が100,000円)

「特待生推薦入学」・・・高等学校での学習の取組において、地域社会と向合い、自ら課題を発見し解決に向けた行動を行い、自らの提案をプレゼンテーションしてきた成果を残された者に、地域から世界で活躍する事を目標とする人材の就学支援をすることを目的とする入学方法。
1年次：入学金は全額を支給(通常150,000円が無料)
1年次・2年次・3年次：授業料は半額を支給(通常650,000円が325,000円)、維持費は半額を支給(通常100,000円が50,000円)、実習費は半額支給(1年次／通常80,000円が40,000円、2・3年次／通常130,000円が65,000円)
※進級時に学内判定会議で基準を満たしていないと判定された場合は、特待生特典を失い一般生となる。

■専門実践教育訓練給付：　非給付対象
※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無
※有の場合、例えば以下について任意記載
（評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）

当該学科のホームページURL

www.bunka-gakuen.ac.jp

（留意事項）
1．公表年月日（※1）
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2．就職等の状況（※2）
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。
※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。
（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3．主な学修成果（※3）
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

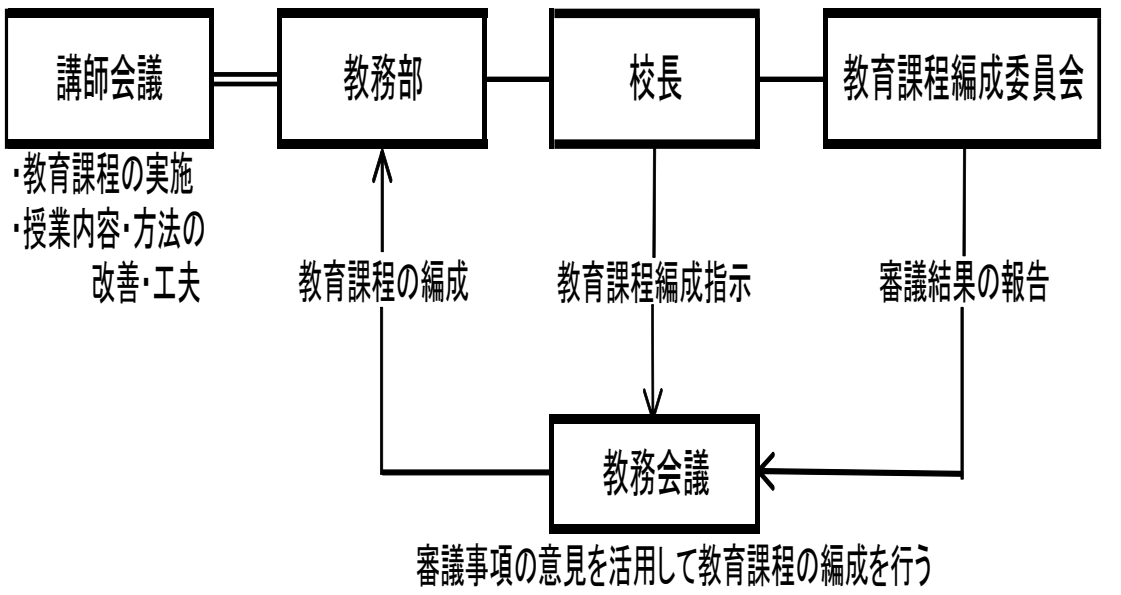
1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

本校は、企業が求める人材ニーズや地域の産業振興の方向性を把握し、職業教育を向上させるために、企業・団体と連携して授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を行うなど、企業等の要請を考慮した実践的かつ専門的な教育課程の編成を行うこととし、各学科の関連業界の動向や地域の産業振興に関して知見を有する業界団体の役職員や、実務に関する知識、技術、技能に関して知見を有する企業の役職員の方々を委員とする教育課程編成委員会を設置し、様々な意見を活用して教育課程を編成することを基本方針とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

下記図にあるように、教育課程編成委員会は校長が直轄して委員会を開催する。委員会は、授業科目の開設や授業内容・方法の改善や、企業が求める人材や就職に関して審議し、その結果を取りまとめ教務会議に報告する。教務会議は、報告のあった事項についての意見を活用し教育課程を編成するものとする。



（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1現在

名　前	所　　属	任期	種別
倉田　稔之	茨城デザイン振興協議会	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	①
坂　大樹	株式会社　スタジオサカ	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	③
椿本　学	いばらき印刷株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	③
西條　友弥子	元茨城県デザインセンター	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	①
橋本　人志	株式会社　水戸京成百貨店	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	③
山本　貴広	ウェディングプロデュースショップ　エクラ	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	③
杉浦　時彦	株式会社　アットワーク	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	③
棚井　政江	茨城インテリアコーディネーター協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	①
小川　憲一	茨城県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	①
横須賀　弘	有限会社　コムスペースデザイン	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	③
渡邉　忠	学校法人　リリー文化学園	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	
荒井　真次	専門学校　文化デザイナー学院	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	
川上　大輔	専門学校　文化デザイナー学院	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

2回　／　毎年　2月、7月

（開催日時）
第1回　令和4年7月11日　14:00～16:00
第2回　令和5年2月4・10日　13:30～15:30

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

2022年度　第1回教育課程編成委員会（7月11日）の活用状況

教育課程編成委員会等の意見	活用状況
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2022年度も継続
①意見委員（倉田委員） 昨年度、常陸大宮が課題になったことは単純に感謝の気持ちがある。市民にも好評である。市民に話を聞く機会も多くあったが、話しを聞いた常陸大宮市民の半分くらいはあと5年後には完成するJRの駅を文化の学生がデザインしたと思っていた。良い誤解というか、学校の事を知ってもらういい機会だったと思う。 デザインの仕事をしているが、市議会議員として行政側で取り組むことが増えた。まちづくりに関してはデザインというキーワードが出てくる事が増えたと感じている。行政はまちづくりにまだ手探りで、参考事例を勉強したりしているが、やはりキーワードは全てデザインである。デザインがまちづくりを左右していくという意識付けが行政側にもされてきている。 学生には問題がない話しだが、プロのデザイナーと関わる機会がここ数年で増えた。社会的な礼儀、儀礼が欠けていて誤解やトラブルになるケースがある。デザイナーの肩書きが付くと大人として勘違いしてしまい、ビジネス的にマイナスな事例を見ている。学生には学校で指導しているので大丈夫だろうと思うが、デザイナーというと特殊で特別扱いされるべきと大人が勘違いしている。自戒も込めてだが、ただの社会人であるという事を忘れてはいけない。	① ・自治体との連携を通してもまちづくりにデザイン的な考え方や表現が求められていることを実感している。行政も成功事例を踏襲し、ハード面からまちづくりを考えるのではなく、地域住民に真に求められるものを見出していかなければならないと考えていると感じている。地域の活性化には、一部のプレイヤーだけでなく、色々な人たちを巻き込みながら進めていくことが必要である。本校のような学生の力が起点となり活性化を促進できれば嬉しく思う。 そのためには、地域の風土を捉えることや地域の声を聞くことが必要である。求めるイメージを理解し、形にして、プレゼンテーションを通して広く伝えることはデザインの力ができることだと思う。 本校の特色としても学生にそのような学習題材を与え続けることを今後も継続していきたい。そして、学生にとってもそうした経験が、この地域で求められるデザインを学ぶことにつながると考えている。 ・デザイナーとして独りよがりになってはいけないと思う。デザインのアイディアは現場にあることを忘れずに、五感を使って情報を収集し、課題解決へと導くことを３年間で繰り返し実践している。社会に出てからもそれを忘れないデザイナーになってほしいと願っている。連携課題では現場視察と顧客の要望を聞くことを欠かさず行っている。また、中間審査をはじめとするプレゼンテーションの機会を設けている。インテリア＆家具クラフト学科３年生の授業ではコミュニケーションデザインという授業も設けられ、連携先とコミュニケーションをとるため意見交換ワークショップなどを行い、デザイン制作を進めていくカリキュラムもある。そこでは、人間力も試されるので社会人としてのマナーを持つことは基本であり、デザイナーとしてのコミュニケーション力が磨かれことを期待したい。

	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業、学生アンケート 2022年度も継続
②意見委員（椿本委員） コロナウイルス感染症の影響で活動が制限される中、企業連携を図っていく事は学校としては大変だと思う。だが学生にとってはいい経験になる。学生にも楽しんで取り組んでほしい。この経験が社会に出てから非常に糧になる。ぜひ継続してほしい。地域デザインゼミはとてもタイムリーだと感じた。販促という部分からこちらに変えたのは良い選択だった。どこに目を付けるかという事は学校としては大事な部分だと思う。 自己点検自己評価についてだが、一部だと思うがやや不満、不満が目に付く。授業が難しいなど知識が不足しているだけかもしれないが、どう改善していくか、その後のフォローが大事である。フォローの結果報告として、こういう風にするということを学生にもフィードバックが必要だと思う。	② ・コロナ禍ではオンラインも駆使して授業を進めてきた。オンラインでのコミュニケーションも当たり前の社会になってきている。学生時代にもそのような経験をしていることは社会に出てからも役立つと考えている。学校としても、連携先の協力を仰ぎ、時代に合わせてこれまでの手法に捉われずに対応できた。 ・地域を題材にした取組みは継続して行ってきた。地域の活性化や観光振興に関心を持つ高校生のニーズも感じている。2020年以降は教育指導要領の変更もあり、探求という学習の中では、地域の活性化がテーマとして取り上げられることが増えた。それにより以前にも増して、地域に貢献したいと考える高校生の層が増えたように感じている。ゼミを改変したことにより、新しいニーズに応えることができると感じている。 ・授業アンケートの結果を受けて改善した点はキャリアデザインの授業を通して連絡を行い、見解のズレやコミュニケーションをとることが必要な場合には個別で面談を実施している。また、これらの課題については、教務部内で共有することは継続している。アンケートは匿名で実施しているため、個別の要望に応えるものではないが、ひとつひとつの回答を真摯に受け止め、改善すべき点に対応し、フィードバックしていくことを欠かさず取り組んでいきたい。個人面談も年間を通して定期的に設けているので、学校側が学生の意見に対処していることは伝えていきたい。 委員の皆様には客観的にこれらのアンケートを評価してしただき、ご意見をいただけることも非常にありがたく感じている。学生の満足度は学校の魅力にもつながるので半期毎の点検を欠かさず行っていきたい。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2022年度も継続
③意見委員（橋本委員） 小売の中でもアパレルファッションの売り上げが厳しい。それは店頭だけではなくネット販売も同様で全盛期より需要は減ってきており、購買の構造そのものが変わってきている。具体例として、ある企業はアパレルとしては大きい取引先だが17ブランド10億円くらいの売り上げだったが4ブランドに減らしている。そこの売り上げに頼っていた百貨店などは厳しいだろう。1フロア借りてくれるような大型専門店などがないとフロアが埋まらないという現状がある。 その大手アパレル企業は、今クリック&トライという新しいビジネスモデルをつくっている。今までは店頭で商品を見てもらい、接客をして販売に繋げていた。ネット販売であれば注文していらなければ返品してという流れだと思うが、今はネットで選んで、店頭でフィッティングして専門のファッションアドバイザーからアドバイスを受けて購入する。デジタルとアナログの融合という形が出てきた。コロナによってカメラで商品の映像を見せるなどもあったが、やはりなかなかイメージが沸かず難しい部分がある。デジタルだけではだめで、アナログの力が再認識された。これから改めて人間としての力が高く評価される。業界の現状を参考にしてもらえたらと思う。 顧客をいくつかのパターンに分けたりはできない。顧客も自分を見て接客しているのか、そうでないのかは分かる。いかにその人に合ったもの、その人のライフスタイルを会話の中から聞き取り、よりベストなものを提案できるか。それによって信頼関係を築いていける。そういった力が必要になる。	③ ・コロナ禍での各業界の変化への対応としては、特にアパレル業界の変化にはスピード感を持って対応している。対面接客中心のスタイルから、WEB・オンラインでの顧客接点が購買のスタートになっていることはコロナ以前から大きく変化しており、それに伴って店舗の在り方や販売促進方法が見直されている。業界の変化に対応するため、2022年度よりインターネット、SNSの授業を追加した。Instagramを中心に特性や期待される効果を学び、アカウントの運用方法と分析方法のノウハウを身につけた。また、ファッションビジネス学科１年生の修了制作では、2022年度もコーディネートを組んだものを実際に着用してプロモーション動画の制作を必須課題に設定している。毎年修了制作展で上級生が運営する店舗の販促にいかし売り上げに結びつけることができれば良い学習題材になる。一方でオフラインでの接客力も磨かなければならない。修了制作では各自がキャラクター設定をし、顧客のライフスタイルまで理解して提案ができる力を養っている。価値観や趣味趣向が細分化、多様化している現在の社会では、トレンドを追いかけるだけでなく、個人にフォーカスして個性やありたい姿を表現していくことが求められると考えている。コロナ禍でオンラインが普及する反面、コミュニケーションがとりずらい、コミュニケーションをとることに苦手意識を持つケースもあると聞いている。同年代から異なる世代までコミュニケーションをとることが求められる職業なので、学内での授業をはじめ、学外のイベントなどにも参加してトレーニングすることも考えていきたい。
	◆全学科全学年 授業名：SNS、修了制作にかかわる授業 2022年度も継続
④意見委員（清水委員代理） どのあたりまで授業で行っているのか分からないが、インターネットリテラシーは大事な部分なので、力を入れてほしい。当社でもデータ集計やアクセス解析をしてキーワードが多いものをInstagramなどのSNSに対応してアップしている。それはネット販売の売上に繋がっている。見える形のファッションビジネスになっている。店頭だと何を求めているのか、それを知るために親しくなるには時間がかかるが、データとして出ているものを分析すれば顧客が何を求めているのかが分かる。そういう部分がWEBの好調に繋がっている。ここに力を入れていくとファッションビジネスの面白さが分かると思う。 最近はファッションビジネスに就職したい若い人が少ない。それに加えて20代～40代の人たちはファッションの歴史を知らない。歴史を分からないでファッションの世界に飛び込んでくる。教えるのが大変な部分がある。格好いい、イケてる、というだけで飛びつくが、実は繰り返されていたりミックスされていたりするところがファッションの面白さ。ファッションの歴史を学んでほしい。	④ ・インターネットリテラシーの重要性が高まっていることは強く感じている。ファッションビジネス業界においてはWEBショップを運営する知識は必須であると考え、前身のファッションコーディネート学科創設当初よりWEBサイトの構築と商品撮影のための写真表現を学ぶ授業を行っている。近年は若い世代を中心にSNSが情報収集のツールとなってきているため、2022年度からはInstagramを中心にリテラシーとアカウントを運営するための知識を学ぶ授業を追加で設けている。毎年水戸オーパで運営している店舗においてもアカウントを運用しているが、データ分析の方法なども含めて学び、より集客・販売促進につながる知識に結び付けていきたい。また、地下で運営している古着ショップも学習の場として活用をしていきたい。学生作品の販売も行っていることから、自分で組んだコーディネートやデザイン・製作をした商品をPRして売上に結びつけるなど、学生のモチベーションにつなげ実践の場となるような仕組みを構築していきたい。また、SNSをだた使うだけでなく、ファッションのプロとして知識や技術を磨くことを疎かしないように気をつけなければならない。プロとして顧客の心を掴むためには、ファッションの歴史や流行を捉え、商品知識を身につけていることが必要だと考えている。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作、ファッションショーにかかわる授業 2022年度も継続
⑤意見委員（山本委員） ファッションの世界を何も知らないで入ってしまうという話だが、実はアパレルの販売やっていた事がある。まさに自分の感覚、好きというだけでやっていた。正直お客様に何を提案したらいいか難しかった。ファッションの歴史を分かった上で働いていたら提案もできて、もっとこうしようという事ができて面白かったのかもしれないと今の話しを聞いていて感じた。 ファッションショーについて、2.3年生合同で行っているのか。3年生がディレクションで2年生、1年生に降りていくのだろうか。満足度アンケートに先生の意見が強かったと書いてあるが、どこまで学生がやるのか。ヘアメイクや衣装についてなども学生が分からない部分を講師がアドバイスして、学生が自主的に行っていくのか、講師が基本的に決めてしまってその中で学生が動いていくのかでも達成度がかなり違ってくるのではないかと思う。	⑤ ・顧客満足を得るためには、感覚だけでなく知識や経験に裏付けされた提案とプレゼンテーションが必要になる。そのためには、ファッションの歴史や造形知識を知っておくことが大切だと考えている。そのために資格取得に対するモチベーションを、知識の定着に活かす指導を行っている。座学を苦手にする学生も、クラス全体で合格に向けて努力する雰囲気づくりが大切になる。 ・ファッションショーについては、講師の指導のもと学生の自主性を引き出して実施している。もちろん学習成果の発表の場であるため、一定の質や基準をクリアすることが求められ、プロ目線の意見やアドバイスをしっかり受けて作り上げている。講師陣には毎年熱心な指導を行っていただいていて、その成果もあり学生はモチベーション高くファッションショーに取り組んでいる。

	◆全学科全学年 授業名：キャリア設計、修了制作、資格取得にかかわる授業 2022年度も継続検討
⑥意見委員（小川委員） 教育理念である文化デザインマインドは学生のモチベーションを高める素晴らしい考えだと思う。社会に出た時に学生のためになる、力になる授業をしていってほしい。毎年度、行政とタッグを組み、連携課題を学生に与えるのは大変な苦労だろうと感じている。那珂市は道の駅を考えていて、キャッチーな部分だと思う。入学者数も増えているということなので、学校そのものが選ばれているということなのだろう。 建築士資格、インテリアコーディネーター資格を取得させるために、前であれば2年生で受けていた授業を1年生で実施するなど、学習の習熟を進めるのは良いことである。前倒しにすることで、ついていけないこともあるかもしれない。自己点検自己評価では、1年生は満足が多い、2年になると授業内容が難しくなるためか、満足が減っていく。個々の能力が違うので、卒業生などのフォローの体制はいいのではないかと思う。建築に関しては、法律に縛られる部分がある。基準を満たせないと建物を建てることができない。建築士の資格を取るために必要な法規や構造というところが習熟度という部分で苦手部分なのだろうが、ここに関してはどこの学校であっても同じだろうと思う。なるべくモチベーションを上げていく授業体制、課題等を与えてほしい。 キャリアデザインの授業の中で、自分を自己評価して、将来にどうつなげていくかを考えさせるのは難しいだろうか。	⑥ ・地域活性化の取り組みは着実に実績となっている。2022年7月には茨城県の地域振興課より講演の依頼を受け、県内の各市町村長に対して本校の活動をPRできた。地域に求められる教育機関として、さらに磨き込みをしていきたい。 ・資格取得対策は力を入れていかなければならない点である。インテリアコーディネーター対策に関しては、いくつかの科目の受講学年を前倒しした。結果としては、２年次の受験結果がより合格に近づいた。2023年度に再受験をした際にはより多くの合格者につながることを期待したい。また、全体的な習熟度の確認も必要であり、受講学年を前倒ししたことにより、著しく理解度が落ちる学生は見受けられなかったが、苦手意識を持たないよう、講師陣とは年間を通して打ち合わせを行い、授業の状況を確認している。しかし、通信制をはじめとして、集団での学校生活を送ることに難しさを抱えている学生もいる。なにかつまづきがあると授業についていけなくこともあるため、担任を中心にフォローは必要である。一人一人の状況を把握し、早期に対応することに留意していきたい。 また、学生のモチベーションを高める取り組みとして2022年度は全学科１年生を中心にキャリアデザイン等の授業を通して、自己発見プログラムを実施した。内容としては、自分の好きなことや得意なことに価値観を重ねる自己分析を行い、自分のやりたいことを見つけ直した。そして、学んでいる授業とどうつながっているかを確認し、日々の学習意欲を高める試みを行った。学生たちへは１年間を終えて振り返りを行い、どのような効果が現れたか検証し、今後は２年次、３年次にも継続していき、３年間を通したプログラムとしていきたい。
	◆全学科全学年 授業名：実習にかかわる授業 2022年度も継続
⑦意見委員（黒木委員代理） 実習と体験学習はモチベーションや経験に繋がっていくので続けてほしい。CADや製図が難しいと在校生から話を聞く。メンタルケアなど留意してもらえたらと思う。	⑦ ・どの学科にも共通して言えることは、座学よりも実習や体験中心の授業を楽しいと感じ入学してくる学生は多いと思う。手を動かし、創作の楽しさを体感しながら学ぶことで技術や知識の定着につなげていくことはデザイン学校の特徴ではないかと思っている。成長を実感し達成感や満足感を得ることで継続につながり、継続することでモチベーションにもなり、専門知識・技術の習得につながるようなカリキュラムを今後も考えていきたい。しかし、中には苦手意識を持つ学生も出てきてしまうこともあるが、講師と教務が情報を共有し、連動してフォローをしていきたい。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業、学生アンケート 2022年度も継続
⑧意見委員（棚井委員） 修了制作を見学して、力作が多く皆頑張っていると感じた。指導をする側の学校や講師にも感心している。 建築のカリキュラムは授業も増えているし、講師も揃っている。建築は裾野が広いので、3年間で身に付くように計画的にカリキュラムが組まれていると感じている。授業が多岐にわたれば、得意不得意が出てくるのは当然の事。3年間授業を受けて得意不得意がある中で、インテリアが好きで得意ならそちらに力を伸ばしていけばいいし、その道に進んでいけばいい。これだけ細かくカリキュラムが組まれているので、3年間かけて学んだ事は身に付いていくと思う。 学校が学生に対してパーフェクトに対応するとはいかないと思うが、授業アンケートを見ると教室によっては環境の悪い所もあるようだ。より学びやすい環境で学ばせてあげてほしい。	⑧ ・修了制作課題は半年の期間を費やしている点、また後期の複数の授業が連動している点、実際のクライアントを意識した課題である点からも学生にとっては大きなウエイトを占める課題である。一年間の集大成として課題制作を乗り越えることで成長しまた次の学年へと進級していくステップになる。講師陣もそれを理解し、教務部と一丸となり学生指導を行っている。学生のモチベーションを維持するために、個人面談でフォローをしたり、中間審査など途中段階にステップを設けてメリハリをつけている。 ・アンケートについては、半期毎に自己点検のツールとして活用している。教務部内でも内容を把握し、改善点をピックアップしている。校舎環境については、学生数が増えたことにより見直す点も出てきている。優先事項としてはインターネット環境であり、Wi-Fi環境の整備を予定し、今後更に学生数が増えた場合にも対応できるよう改善予定である。加えて、増加した学生数に対応できる教室環境の整備を実施中である。

2022年度　第2回教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会（2月4日、2月10日）の活用状況

教育課程編成委員会等の意見	活用状況
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2023年度も継続
①意見委員（倉田委員） （PD3）サッカーと農業を親しみやすいものに近づける工夫があり、魅力のあるものに仕上げている。良いコンセプトの作品が多い。 （PD2）楽しい発想がたくさんあり、デザインの質が高い。スペースの関係もあるだろうが、プレゼンのフォーマットが同じで画一的な印象になってしまい、作品や中身の勢いを削いでしまっているように感じる。この展示に限らず全体を通してだが、仕方がないことかもしれない。 （PD1）制作までのプロセスがたくさんの情報で埋められていて良い。 （PD1 ＤＡＲＵＭＡ/PD3県展）自由に表現できる課題は、クリエイティブなモチベーションを上げていくには最適な方法。とても良いワークだと思う。一番見応えがあった。この自由な勢いのようなものを殺さないようにして欲しい。 （IF3）スケールの大きな提案も多く楽しさが伝わってきた。那珂市の反応が知りたい。 （AD1）様々な展開があって全体の街としての面白さが良い。	・(PD2)作品展示のフォーマットについては、１、２年次は制作スケジュールの点から定型のフォーマットの必要性も感じている。制作物については、修了制作展直前までブラッシュアップを行っているため、作品そのものの完成度を高めることを目指したい。２年次では、デザインのモックアップ制作にも取り組み、与えられたスペースを展示空間としてどう魅せていくかの指導も行っているが、画一的な印象に留まっている点は今後も課題として捉えていきたい。また、３年次については、展示の完成度も高めていきたいと考えている。どのような展示内容にすると、見た人に自分の作品を一番わかりやすく伝えられるかを検討し、空間をデザインできる力も磨いていきたい。 ・(PD1)制作プロセスを重要と捉え指導に力を入れている。1年生はデザインの作り方をしっかり身に付けることを目標にしている。情報の収集と分析を行うことからコンセプトを導き出し、様々な表現方法を検討して良いデザインを目指すプロセスを体得できる課題になっていると感じている。中間審査のプレゼンテーション後に一から検討しなおす学生もおり、試行錯誤を繰り返すことで、一つ一つの表現に意味を持つデザインにつながる。また、プレゼンテーションにおいても、しっかり考えていることが、斬新なアイディアでもクライアントに納得を得ることにつながると考えている。 ・(PD1・PD3作品展示)学生は絵を描くことが好きでデザインを志す者がほとんどであり、クリエイティブなモチベーションを持っている学生は多い。デザインは相手を理解し、相手の立場に立って考えることが必要なため、自分なりの考えを出すために苦労することもある。一方で、広告イラストレーションの授業では、県展への出品に毎年取り組んでおり、学生のモチベーションにも繋がっている。県展に限らず、NFTアート作品の募集や過去にはコミケの出店など、創作を純粋に楽しめる場を設けることも行っており、継続していきたい。

	◆全学科全学年 授業名:修了制作にかかわる授業 2023年度も継続
②意見委員（椿本委員） （PD3）ホーリーホックと野菜が結びつかなかったが、選手を登場させたりして工夫されていた。 （PD2）自分の興味のある題材でよく考え制作されていた。 （PD1）色々なキャラクターがテーマに沿って考えられており、これから成長が楽しみな作品が多かった。 （IF3）道の駅というとどこも同じようなものだが、学生の提案が少しでも通ったものになるといいと思う。	・(PD2)学生自身の興味関心と作品制作を結びつけることは、モチベーションを高める意味でも、課題に取り掛かりやすくなる。各講師も毎期開催の講師会の中で研修を行い、学生のモチベーションを上げることに日々試行錯誤している。学生との接点が多い教務の視点からも学生の性格や趣向を講師と共有し、指導に活かしていくことが、技術向上につながると考えている。そのような点からも自己発見プログラムの結果については、講師にも共有できるようファイリングして回覧できる対応をとっている。 ・(PD1)１年次の段階では、illustratorの得意・不得意や思考の深さ、プレゼンテーション力など、クラスの中で習熟度に差があるかもしれないが、見た目の美しさと共に作品自体から感じられる熱量や成長の可能性が大切かもしれない。絵を描くことからデザインを考えることや表現することが楽しくなり、社会に貢献できるとそれぞれの学生が感じることは、２年次以降の主体性やモチベーションにもつながるのではないかと思う。近年続いたコロナ禍で学生たちには様々な体験が不足していると言われ、職業に対する理解はもちろん、自分自身のやりたいことや興味関心を深める機会が喪失していることからも、修了制作課題を乗り越えることで、更に成長できる機会とすることが大切だと考えている。また、2022年からは自己発見プログラムと称し、学生自身が自分のキャリアを見つめ直し、授業と結び付けることでモチベーションに繋げる取組みを行っている。そのような取り組みとも連動させていきたい。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2023年度も継続
③意見委員（西條委員） （PD3）茨城を代表するサッカーチームが茨城の象徴である農業の活動をしている、それをどんな切り口でプロモーションしたか、という視点がもっと各チームや学生に聞けると更に見応えがありそう。 （IF3）場や建物づくりの段階から住民や一般の方がワークショップで関っていて、どうしたらそこに人が来るかが良く考えられており、プレゼンやパネル、模型の表現力の高さを感じた。 （AD1）学生一人のプレゼンしか聞けなかったので、全体（道の駅周辺の事や価値を何に置いたのかなど）がつかめなかった。学生はきっちり話ができていて好感が持てる。 （FB2）イラストレーションの方向性やツールの使い方など、表現力が多様化していると感じた。IllustratorやPhotoshop、ドローイングなどの基礎を学びつつ、表現したい方向の技術は各々で高めていくのだろうか。ファッションといっても分野ごとに求められる力が結構違うのだろうと想像したが、学校ではどこまでのスキル、考え方を身に付けるのかが気になった。	・(IF3)インテリア＆家具クラフト学科・建築設計デザイン学科では、今後地域で活躍するために求められる力のひとつとして、コミュニティデザインに力を入れている。まちづくりの場面ではハード面が先行しがちだが、少子高齢化の社会では地域住民を中心に、町ににぎわいやコミュニティなどの場作りを考え、建築につなげることが求められる。近年では、作品制作の過程で、地域住民や町のプレイヤーとのワークショップを行っている。その地域にとって本当に価値のある提案をするためには大変有効であり、世代の違いや価値観の異なる中で、コミュニケーション力を養うことにもつながる。そして、建築的な提案として形にまとめる力は、AIができないことであり、これから社会に出る人材にとっては価値があることだと考える。 ・(FB2)ファッションビジネス学科の学生は特に自分の好きなことに対する追究がより深い傾向があると思っている。絵を描くことが得意な学生であれば、学んだことを授業外の部分でも深め、自分の強みとしていることがある。ファッションビジネス業界の人材像としては、ファッションデザインの知識やコーディネート力に加え、店舗ディスプレイ、販促の知識も求められる。そのため、カリキュラムとしては、２年次にAdobe IllustratorやPhotoshopを扱うトレーニング、SNSビジネスに関する知識の授業を設け、３年次では、ECショップの管理に必要なWEBの知識、商品撮影を想定した写真表現の授業などを設けている。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作、ポートフォリオにかかわる授業 2023年度も継続
④意見委員（山本委員） （PD2）プレゼンをしてくれたブックカバーの学生しか見ていないが、例えば文庫本を持っていなくても親や兄弟にプレゼントしてあげる、などプラスで説明があるといいと思った。 （PD1ポートフォリオ）授業で学んだこと、制作したものをポートフォリオにまとめていくと自分は何が得意なのか、何が強みか、というのを知ることができる。また、振り返ることもできる。とても良い取り組み。 （AD2・3）その土地を知る、人を知る、物・事を知る、どんなターゲット層でどういう人に来てほしいのか、どんな場所にしていきたいのか、道の駅が茨城に多くある中で、多くの中の一つにしてしまうのではなく、「那珂市の道の駅」だから行こうという場所にするために、魅力はもちろん、問題点も調べ、多くの人が利用したくなる場所にしようという思いが伝わってきた。 （FB2）女子高生をターゲットとして、どうしたら自分で考えたファッション、コーディネート（ディスプレイ）が今の高校生に響くのか、また、その中にも自分の個性を出し、現場で展示販売できる事は、これから社会に出るにあたってプラスとなる取り組み。SNSの運営も顧客のニーズや反応を知ることができる。これからの時代に大きなプラスになる。 （FBファッションショー）進めていく中で大変なこともあるだろうが、それよりもまずは、このようなイベントを皆で協力し一丸となってできること、楽しんでやれることが大切。	・(PD1ポートフォリオ)自分の価値を言語化することは就職活動の場面では重要になる。ご意見をいただき、ポートフォリオが学生自身の強みや得意の分析にもつながるものだと改めて認識できた。広告プロモーションデザイン学科では、毎年後期授業の一環としてポートフォリオ制作の指導を行っている。他学科でも就職活動の準備としてポートフォリオ制作の重要性を伝えているが、指導を厚くしても良いのではないかと思う。 ・（AD2・3）各学科ともに１年次ではデザイン制作のプロセスを体得することが重要である。言葉やイメージなどの抽象的なものから具体的な制作物として形にすることは、クリエイティブな分野を目指す学生にとって２、３年次の学習に繋がる第一歩となる。その過程をいかに楽しみながら乗り越えていくかという点も大切になってくる。作品やプレゼンテーションから課題にのめり込んでいることが感じられる学生が増えるような指導を行っていきたい。 建築の分野に限らず、ありきたりな提案でなく、本当にクライアントの要望や課題に応える提案を考える力がますます重要になる。そのためには関わるヒトやモノ、コトを十分に理解することが必要である。学生には修了制作において、レクチャーやイベントでのワークショップ、話を伺う機会を設けている。情報過多な社会の中では、個性や人となり、背景にあるストーリーが見えることが、ファン作りや親しみを持ってもらうことにつながる。デザイナーとしての心構えとも言えることだが、クライアントを深く理解してデザイン制作につなげることを大切にしていきたい。 ・(FB2) ファッションビジネス学科では修了制作の提案が実際に店舗ディスプレイとして形になり、販売まで体験できることは大変貴重な実践の場だと考えている。本校ならではの特色とも言える取組みであり、引き続き企業の協力体制を構築することにも注力していき、また、それを地元の高校や企業へのＰＲにも生かしていきたい。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作、ファッションショーにかかわる授業 2023年度も継続
⑤意見委員（清水委員代理） （PD3）GRASS ROOTS FARMが何の野菜を生産しているのかが分かるともっと良いかもしれない。 （PD2）そもそも梅染めは何色に染まるのか。ポスターだとピンクだが、実際はどうなのか分かるともっといいと思う。 （PD1 ＤＡＲＵＭＡ）ＤＡＲＵＭＡは個性豊かでよかった。ダルマを使用している事が解るデザインに限定すると更に良かったのではないか。 （AD2）ほとんどの道の駅には農産品、地域の土産、レストラン、コンビニなどがあるので、それ以外での魅力を上げるショップなどの提案が少なかった。宿や居酒屋などの提案は面白いと思った。 （AD1）住みたくなる家のデザインが多く良かったと思う。600㎡の広さがあるので、庭を有効活用したデザインも見たかった。 （FB1）どのコーディネートもリアルにいそうな提案が多く、もう少し個性が強くてもいい。 （FBファッションショー）目を引くデザインも多く個性があって良い内容だった。少し黒色アイテムが多すぎる気がする。黒を使えば安心ということだろうか。	・(PD1・PD2・PD3)専門的な知識がなくとも、見る人にわかりやすく伝えられる展示方法を模索することは、修了制作展の開催にあたって課題感を持って取り組んでいきたい。来場者にはアンケートをとって客観的なご意見をいただくことも行っている。課題の内容については、サインや印刷物を制作し掲示しているが、一見して伝わる明快さも多数の方が来場する会場運営において検討していきたい。 ・(FB1・FBファッションショー)学生はコーディネートの提案にあたってキャラクターを設定している。ペルソナを学生に近い年齢にしていることもあり、等身大の自分を現わしているともいえる。共感や興味関心を持ってもらうという意味では、学生自身の興味関心に近いコーディネートにまとまってしまっている部分もあるかもしれない。また、アイディアを具体的なコーディネートに置き換える際に、アイテムのバリエーションが企業から提供された一般客の古着ということもあり、プロのセレクトした商品ではないことも影響が考えられる。しかしながら、近年ファストファッションや古着のトレンドもあり、学生自身の引き出しの幅が狭くなっていることも挙げられるかもしれない。シーズン毎のコレクションを授業ではチェックしているが、実際に手に取ったり、着用できる機会は限られている。EC販売がますます普及する流れの中で難しさもあり、SDGsの観点からは大変意味のある取組みであると考えているが、ファッションのプロとして、消費者の想像の一歩上を行く提案力が求められる。ファッションショーにおいても、さまざまな制約はあるが、見る人に驚きを与えるような個性を伸ばすことも念頭に置いていきたい。

	◆全学科全学年授業名： 修了制作にかかわる授業 2023年度も継続
⑥意見委員（小川委員） （PD2）梅染めに関しては分からない人が多いと思うので、是非水戸市に提案してほしい。 （PD1）キャッチコピーとキャラクター設定が面白い。思わず笑ってしまう作品もあった。 （PD1 ＤＡＲＵＭＡ/PD3県展）ＤＡＲＵＭＡは個性と発想力がそれぞれ違うという事を改めて感じる作品。県展作品は作風、画風がそれぞれだが、レベルは高いのではないかと感じた。 （IF3）道の駅に必要な要領をしっかり加味した上でその他の独自の考えでまとめている。プレゼンがしっかりできており、自分の考えをまとめられていると感じる。 （AD2）具体的で現実になりそうなプランもあり、講師の指導も良かったのだろうと思う。ただし、現実的ということは学生としては面白くないという捉え方もできる。 （AD1）地域の特産やこれからのものづくりのコンセプトが少し弱い。建物プランに積極的に取り入れてほしかった。	・(IF3)自分の考えを持ってデザインすることは大切である。そのためには、一つひとつのプロセスをしっかり経て制作していく必要がある。自分でしっかり調べたり、感じたりしたことが説得力のある言葉や作品となる。そして、作品制作に真摯に取り組んだ時間が、熱意や想いにつながると思う。得意不得意はあるが、自分の言葉で考えを伝えることは大切であり、プレゼンテーションの指導も力を入れていきたい。 ・(AD2)道の駅にかかわる３学年の提案においては、実際にこれから道の駅の建設が予定されていることもあり、行政や地域住民の期待値が高く、より現実的なプランが提案できたのではないかと思う。プレゼンテーションにおいても、維持・管理の部分についても質問があった。より現実的になればなるほど様々な制約も出てきてしまうが、学生らしさと現実的な部分のバランスは難しさもある。授業の題材としては、１年次、２年次では、仮想の課題設定も多いので、学生らしい発想や表現のもとのびのびとした提案をしてもらいたい。一方で、３年次になると学生とは言え、クライアントをはじめ周囲の期待が年々高まっていると感じる。うまくバランスをとった指導が必要になる。 ・(AD1)１年生は比較的自由度が高い課題設定にしているが、住宅設計の基本を理解することがベースにある。実際に建築可能な点を踏まえると、デザインの制約も出てくるが、その中でいかにコンセプトを際立たせていくかは大切である。ワクワクしたり、夢を描けるような建築や空間を提案できるような人材を目指したい。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2023年度も継続
⑦意見委員（棚井委員） （PD2）キャラクターを作って表現しているところも良かった。パネルの作品もすぐに世に出せるのではないかと感じる作品もあった。 （PD1）丁寧に作りこんでいて、1年経つとこんなに成長するのだなと実感した。すぐ世に出せそうな作品もいくつかあり、講師の指導の賜物だと思う。 （AD2）しっかりしたテーマを持っていて、模型の完成度も高く驚いた。 （AD1）力作が多かったと思う。テーマ決めと絞り込んだ作品を目にできてよかった。 （FB1）新しい自分に出会う、行く場所に合う、自分の好きな色を発見する、など様々で発想に富んでいて良かったと思う。	・(PD2)講師陣はデザイナーとしての活躍だけでなく、とても熱心に学生指導をしてくださっている。毎年の反省点を振り返り、よりよいものにしていこうとする姿勢も大変有難いと考えている。近年は、定年により新しい講師が増え、年齢層が下がっている。学生も親しみやすく、スムーズに授業の対応を行えている。また、講師会では、研修の時間も設けており、学生の世代に対する理解を深める時間を設け、モチベーションの向上に努めている。研修の中では、講師同士で意見を交換する時間も設けており、講師同士が成功事例を共有する機会にもなっている。また、精神的な悩みを抱えている学生も少なくない。教務も含めて、学生指導には協力体制が必要であり、引き続き質の高い講師を確保していきたい。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2023年度も継続
⑧意見委員（黒木委員代理） （PD2）ニーズによって商品が考えられていた。パネルだけではなく、商品もきちんと作られている。 （PD1）自分の好きなものを使いつつ、コンセプトのしっかりしたキャラクターが制作できている。 （FB1）1年生とは思えない程、コンセプトや作品がしっかり作られていた。魅力的なパネルがたくさんあった。 （AD2）3年生と比べても遜色ない作品もあり、2年生のうちからレベルが上がっている。 （AD1）コンセプトが分かりづらい作品もあったが、プレゼンを聞いて理解できた。もう少しパネルに力を入れても良いのではないかと感じた。	・(PD1、FB1)１年次の修了制作では、深い思考をもとにコンセプトを導きだし、デザインを制作することが大切である。作品展示やプレゼンテーションを通して、それが第三者に伝わるかどうかは学習の成果を測る上でも確認する必要がある。毎年修了制作展という形で、様々な方に学生の作品を見ていただき、評価を受け、学生の成長につなげられるようにしていきたい。水戸オーパ、ファッションクルーズなど外部からの依頼もあり、学生の作品発表の場が増えていることも嬉しいことである。周囲の期待を超えるような作品制作を行っていきたい。 ・(AD1)１年生の展示では、A1パネル・カラースキーム・模型に加えてコンセプトシートを各学生が展示していた。パネルや模型だけで伝えきれない部分を補うことを目的としていたが、パネルの内容の改善も含め、展示の方法も工夫することで、作品自体の分かりやすさにもつながるのではないかと思う。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2023年度も継続
⑨意見委員（岡田委員） （PD3）今ある事業をさらに広げるためにどうするか、という課題設定が良かったと思う。 （PD1）紙への出力だけでなく、ノベルティの制作が紙以外にイメージがどう形になるのか、勉強になっていると思う。 （PD1 ＤＡＲＵＭＡ/PD3県展）PCスキルが整っていない時期に手作業でダルマを制作していると聞き、面白い課題だと思った。講師の作品への評価が難しそう。美術展覧会出品も良い取り組みだと思う。 （PD1）ポートフォリオ）学生同士で見せ合う楽しみが励みにも繋がる。 （IF3）建物だけでなく、地域の活性化や不動産価値を上げるために特産品など情報収集から行っていて驚いた。 （FB1）コンセプトを伝えるためのデザインを考えている。プレゼンテーションもしっかりと出来ていた。	・(PD3)事業拡大のための課題を解決することは、実際に社会に出た後にも直面することである。より実践的な形で事業のビジネスモデルやユーザーの視点を把握し、解決方法を考えることは即戦力となる人材を育成する上でも、とても勉強になると考えている。過去の成功事例を参考にすることも大切であるが、視点を変えたり、新しいアイディアを盛り込み企画立案する力は、企業が最も求めることであり、課題解決力を養っていきたい。 ・(PD1)1年生の修了制作ではキャラクター制作だけでなく、具体的な活用イメージの制作にも取り組んでいる。デザイナーとして、データを作ったものがどのような形になるのか実際に体験することは良い経験になっている。修了制作以外にもDTP演習の授業では、印刷用のデータ作成知識を学んだことをいかして、DMを実際に印刷して形にしている。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作、SNSにかかわる授業 2023年度も継続
⑩意見委員（丸山委員） （PD3県展）美術展覧会への出品は学生のモチベーションも上がると思う。作品自体も非常に素晴らしい出来だった。 （PD1ポートフォリオ）自分の取り組みや学んだことをコンセプトに従ってまとめておくことは、将来のためにも良いことである。 （IF3）実際にある場所を想定し、そこからイメージやコンセプトを創造して作品を作り上げており、素晴らしい取り組みだと毎回感心している。実際に足を運んでいてよりリアルな作品になっていると感じた。 （FB2）SNSについても授業に取り入れており、将来を見据えたカリキュラムになっている。 （FB1）自分のイメージやコンセプトからファッションコーディネートをしてPRまでしっかり出来ている。エクセル内のショップで働いている学生もおり頑張っていると感心した。	・(IF3)修了制作においては、現地視察から制作がスタートし、イベントに参加してワークショップを行い、アンケート調査を実施するなど、現地に足を運び観察することや実際に地域の住民と触れ合う経験を通して町の風土を実際に肌で感じることがデザインのヒントになっている。インターネットから様々な情報を得ることはできるが、実際に学生自身の目で見たり、感じたりすることで新しい発見があり、他にない魅力の気づきにつながる。オンラインが普及していつでもどこにいてもコミュニケーションがとれる社会になりつつあるが、デザインを考える上での基本である、実際に足を運ぶ大切さは引き続き指導していく。 ・(FB2)業界のニーズを捉えることは常に敏感でいなくてはならない。昨今のAIをはじめとする技術革新は、これまでの概念を覆すような変化をもたらし、学生が社会に出た際の人材価値にもつながる。2022年度よりファッションビジネス学科ではSNSビジネスの学習を取り入れた。Instagramなどのソーシャルメディアを活用した販売促進の手法を身に付けている。今後も社会の変化に留意してカリキュラムの編成を行っていきたい。

	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2023年度も継続
⑪意見委員（髙松委員） （PD3）ホーリーホックの選手が野菜を作っていることは知らなかった。選手が作った野菜を食べる機会があったら楽しいだろうし、健康にも気を配れそうである。 （PD2）ポスター、コンセプト、企画も全てクオリティが高い。 （PD1）梅染めを体験してコンセプトを決めている。自然のものを利用したりして発想が1年生とは思えない程よくできている。 （AD2）食材からのショップづくりは面白い発想だった。 （FB2）思わずワクワクするような色使い、楽しんで制作している中にもきめ細かな努力をしていて驚かされる。 （FB1）組み合わせがとても良い、若い感性に刺激を受けた。	・(PD1)様々な体験はデザインのヒントにつながる。そのため、修了制作では担当者による直接のレクチャーや現地視察、イベントを通しての地域の人々との触れ合いの中で、コンセプトやアイディアの深堀りをしている。今後もこのような取り組みを継続していきたい。 ・(FB2)ワクワクするような感動が起こる作品が生まれることは嬉しく思う。学生自身が楽しんで作品作りを行っていることはもちろん、作品制作にかけた時間や丁寧さは見る人に必ず伝わるものである。講師と教務では、学生のモチベーションをいかに上げて、作品制作そのものを学生が楽しめるような環境を作っていくかも重要である。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2023年度も継続
⑫意見委員（関根委員） （PD2）県外の人は水戸が梅も名物だということを知らない。梅染めで、水戸の梅をもっと学生の力でPRしてもらいたい。 （PD1）一人ひとりコンセプトを意識しており、将来性を感じる。 （PD1ＤＡＲＵＭＡ）発想力があり、成長が見込まれる。上手い下手よりも今の力が学校も本人も分かると思う。 （AD2）魅力を上げる、というのは大人でもなかなか考えるのが難しいが、よく考えていると思う。 （AD1）講師が学生の将来性を見込んでテーマづくりをしている。独創的な発想もあり見応えがある。 （FB2）インターネットビジネスも含めての学生指導をしていて良い。	・(PD1)毎年修了制作展では校内を利用して全学生の作品展示の機会を設けている。水戸オーパ、ファッションクルーズなどの商業施設や各自治体との連携を通して、学外での作品展示の機会にも積極的に利用している。展示をすることにより、自分の力を客観的に知ることができることはもちろん、他人の作品を見たり、評価をいただいて学べることが数多くあると考えている。また、モチベーションの点からも、たくさんの人に自分の作品を見てもらえることを制作意欲に結び付け指導を行っている。今後も積極的に展示の機会を作っていきたい。 ・(AD1)学生の個性をいかした作品制作は意欲も上がり、やりたいことを軸にする指導は学生の質に合っていると感じる。同時に、自分だけの意見でまとまった独りよがりな作品にせず、クライアントを納得させる根拠を持ち、プレゼンテーションでしっかりと伝える力も必要である。自由作品を作ることもあるが、自分の個性を認めてもらい、好きなことをいかして社会に貢献している実感を持ちながら学んでいくことが、デザイナー・社会人としての資質を育むことにつながると考えている。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2023年度も継続
⑬意見委員（阿久津委員） （PD3）完成度も高く、ホーリーホックと連携していることが学校のPRにも繋がっている。 （PD1）年生でそのまま商品として使えそうな完成度の高さで驚いた。 （PD1ＤＡＲＵＭＡ）発想が面白く、自由な考えがあってとても面白い。ダルマという制限を超越した作品が多くデザイン力の高さを感じた。 （IF3）模型のレベルが高い。細かなディティールも作りこんでいる学生が多い。 （AD2）店舗デザインのみならず、敷地全体を活かしたプラン作りがとても良く出来ていた。 （AD1）街の特徴をよく調べており、自分の中でよく考えをまとめられている。 （FB2）オーパに店舗を出せることが学生にとっていい経験になる。社会人になっても活きると思う。 （FBファッションショー）人前で作品を発表できる度胸がすごい。社会に出てからも活きる経験になっている。	・(AD2)学生にとっては扱いが難しい大きな敷地だったかもしれないが、それをいかしたプラン作りができたことは学習成果になっていることが確認できた。接道と周辺環境も踏まえ店舗の提案を行えたことは次の学年へのステップになると思う。インテリアの作り込みの部分では、2年次の修了制作では重要である点を踏まえると、更なる向上を目指していきたい。 ・(AD3)良いプランができて自信を持って制作を進めることが、模型制作の意欲にもつながっていると感じる。時間の面でも、プラン作りが順調に進むと模型制作にも時間を割くことができ、質向上につながるので、全体的な進行管理にも気を配りたい。また、学生間での質の差にも留意したい。苦手な学生もいると思うが、それぞれが持てる力を精一杯出し切ることでその後のレベルアップにつなげてほしい。 ・(AD1)1年次から町の特徴を捉えることからデザインを考えている。実際に現地を見て、歩いて気づくことがたくさんあり、その気づきが多くの人からの共感につながり、その町に合うデザインの提案にもなるものだと考える。また、プレゼンテーションの面でも、自分の経験を言葉に置き換えることで、結果的にまとまっている提案になっている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

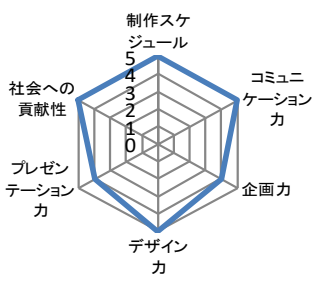
本校は教育方針として、「職業実践主義」「プロセス・表現主義」「デザインマインド教育」の三つを掲げている。特にデザインプロセスの実践的学習として「情報収集」→「分析」→「企画」→「デザイン制作」→「プレゼンテーション」までの流れを体験的に学習することは、上記の教育方針を総合的に理解することができると考える。そのために、地域においてデザインを必要とする企業・団体・自治体と連携して学生に「現実的テーマ」与え、担当講師の指導の下、一連のデザインプロセスについて質の高いデザイン力を習得することを目的として実習・演習を行うことを基本方針とする。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

広告プロモーションデザイン学科1年

企業・団体等 連携課題　実施報告書

2022年度　修了制作

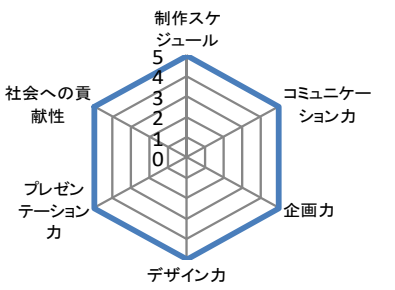
課題名	水戸の梅染めプロモーションキャラクターの提案
レクチャー レクチャー対応 レクチャー・視察参加者	①2022年7月28日（木）10：00～　レクチャー、現地視察 ①連携団体：水戸ユネスコ協会　会長　林　和男様 講師：益子和明先生、小池隆夫先生 教務：川上、飯田 広告プロモーションデザイン学科 1年 全員 45名　（広告プロモーションデザイン学科 2年 28名も参加）
中間審査会実施日 中間審査会参加者 中間審査会発表学生	2022年11月11日（金）9:00～12:10　本校6F プレゼンテーションルーム教室 連携団体：連携団体：水戸ユネスコ協会　会長　林　和男様 講師：小池 隆夫 先生　　教務：川上、飯田 広告プロモーションデザイン学科1年　　全員　45名
授業内評価実施日	2022年1月6日（金）9:00～12:10　本校6F プレゼンテーションルーム 講師：小池隆夫先生　　教務：川上、飯田 広告プロモーションデザイン学科　1年　全員　45名（45名発表した中から最終プレゼンテーション発表学生6名の選抜）
最終プレゼンテーション実施日 最終プレゼンテーション参加者 最終プレゼンテーション発表学生 受賞者	2023年2月25日（土）14:00～16:00　総合教育研究所 連携団体：水戸ユネスコ協会　会長　林　和男様 総合教育研究所長　春原　孝政様 総合教育研究所　教育研究課　課長　野澤　昌永様 総合教育研究所　教育研究課　研究研修係　美術担当　平戸　拓也様 講師：益子和明先生、小池隆夫先生　教務：渡邉本部長、荒井校長、川上、飯田 大倉　妃夏、後藤　華奈、佐藤　紅華、東矢　ゆりか、冨永　那智、山口　梨羽　選抜　6名（45名中） 水戸ユネスコ協会賞：佐藤　紅華（さとう　くれは）
審査会実施日 審査会参加者 受賞者	2023年2月4日（土）13:30～15:30　本校舎7F　L701教室 審査協力団体：茨城県におけるデザイン団体の代表者　茨城デザイン振興協議会　会長　佐藤正和　様 本校講師：広告プロモーションデザイン学科担当　14名参加 教育課程編成委員：茨城デザイン振興協議会 倉田 稔之様、いばらき印刷 椿本 学様 Design Farmマゴコロ 西條 友弥子様 学校関係者評価委員：茨城県中小企業団体中央会 近藤哲生様、光和印刷　岡田 寛和様 卒業生代表：デザイン系企業で働く卒業生　3名参加 1年次修了制作部門　最優秀作品賞：深谷 律己（ふかや りつき）「Bio（バイオ）」
作品展示期間・場所	修了制作展（2023年2月4日～12日）本校舎7F　L701教室
成果の評価	・レクチャーにおいては、団体担当者より水戸ユネスコ協会の活動、水戸の歴史と梅染めの魅力と現状の課題を説明する機会を設けていただき詳しく知ることができた。また、7/28(木)に偕楽園の視察と梅染め体験を行い、実際に現地を見ることや体験することで、作品制作のためのリサーチを行うことができた。 ・中間審査会・プレゼンテーションへの出席や準備も快くご対応いただき、学内だけでは補いきれない内容もご指導いただけた。（現状分析・問題発見） ・キャラクターの研究や制作過程、ラフ画を製本し1冊にまとめることで、様々な角度から課題を捉えアイディアを出していくこと、たくさんのアイディアを比較検討しブラッシュアップすることを身に付けた。大判出力することで、印刷データの制作知識も習得できた。（作品制作） ・制作した水戸梅染めのキャラクターをポスター・ステッカー・キーホルダー・等身パネルに展開し、実用化した際のイメージを伝えた。キャラクターの活用を考えた提案を行い実践的な学修につながった。（問題解決） ・中間審査会では、団体担当者に向けプレゼンテーションを行い、現在までの考えを発表・具体的な助言を頂く事で方向性の確認や不足している部分について補うことができた。（プレゼンテーション） ・連携団体からの評価に「親しみやすいキャラクターを目指して工夫されている」「オリジナリティがある」「キャラクターのストーリー設定が面白い」とのコメントを頂き、今回の課題設定が上手く学生の学修効果へと繋がる結果になった。（外部評価） ・みと・まち情報館にて選抜6名の作品を3/1(水)～3/15(水)の期間展示していただき今回の取り組みを広く周知できた。	学修成果の評価 
反省点	・中間審査の段階でデータ化を行い、分かりやすくイメージを伝えることができたが、審査後の修正が難しく、時期を検討する必要がある。 ・キャラクターのパーツひとつひとつに至るまでなぜそうしたのかを説明した資料をより充実させたい。	
教務対応担当	荒井校長・川上・飯田	

広告プロモーションデザイン学科2年

企業・団体等 連携課題　実施報告書

2022年度　修了制作

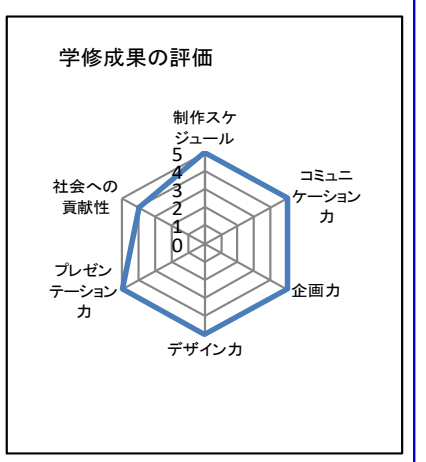
課題名	水戸の梅染めの魅力を伝えるプロモーションデザイン
レクチャー レクチャー対応 レクチャー参加者	①2022年7月28日（木）10：00～　レクチャー、現地視察 ①連携団体：水戸ユネスコ協会　会長　林　和男様 講師：益子和明先生、小池隆夫先生 教務：川上、飯田 広告プロモーションデザイン学科2年 全員 28名 （広告プロモーションデザイン学科 1年 45名も参加）
連携事業	水戸市教育委員会　総合教育研究所　次世代エキスパート事業「アーッと驚くアートリーダー育成コース」 2022年7月3日(日)、7月22日（金）、8月9日（火）、8月26日(金)、2月25日（土）
中間審査会実施日 中間審査会参加者 中間審査会発表学生	2022年11月10日（木）13:00～16:10　本校6F プレゼンテーションルーム教室 連携団体：連携団体：水戸ユネスコ協会　会長　林　和男様 講師：益子和明先生、小池隆夫先生　　教務：川上、飯田 広告プロモーションデザイン学科2年　　全員　28名
授業内評価実施日	2022年1月11日（水）9:00～12:10　本校6F プレゼンテーションルーム 講師：益子 和明先生、小池 隆夫 先生 広告プロモーションデザイン学科2年　　全員　28名（28名発表した中から最終プレゼンテーション発表学生6名の選抜）
最終プレゼンテーション実施日 最終プレゼンテーション参加者 最終プレゼンテーション発表学生 受賞者	2023年2月25日（土）14:00～16:00　総合教育研究所 連携団体：水戸ユネスコ協会　会長　林　和男様 総合教育研究所長　春原　孝政様 総合教育研究所　教育研究課　課長　野澤　昌永様 総合教育研究所　教育研究課　研究研修係　美術担当　平戸　拓也様 講師：益子和明先生、小池隆夫先生　教務：渡邉本部長、荒井校長、川上、飯田 市村　有彩、内田　汐音、笠上　愛莉、北山　彩也香、沢山　りお、本田　琴菜　選抜　6名（28名中） 水戸ユネスコ協会賞：沢山　りお（さわやま　りお）
審査会実施日 審査会参加者 受賞者	2023年2月4日（土）13:30～15:30　本校舎1F　ギャラリー 審査協力団体：茨城県におけるデザイン団体の代表者　茨城デザイン振興協議会　会長　佐藤正和　様 本校講師：広告プロモーションデザイン学科担当　14名参加 教育課程編成委員：茨城デザイン振興協議会 倉田 稔之様、いばらき印刷 椿本 学様 Design Farmマゴコロ 西條 友弥子様 学校関係者評価委員：茨城県中小企業団体中央会 近藤哲生様、光和印刷　岡田 寛和様 卒業生代表：デザイン系企業で働く卒業生　3名参加 2年次修了制作部門　最優秀作品賞：武井 梨紗（たけい　りさ）
作品展示期間・場所	修了制作展（2023年2月4日～12日）本校舎1F ギャラリー

成果の評価	・レクチャーにおいては、団体担当者より水戸ユネスコ協会の活動、水戸の歴史と梅染めの魅力と現状の課題を説明する機会を設けていただき詳しく知ることができた。また、7/28(木)に偕楽園の視察と梅染め体験を行い、実際に現地を見ることや体験することで、作品制作のためのリサーチを行うことができた。 ・中間審査会・プレゼンテーションへの出席や準備も快くご対応いただき、学内だけでは補いきれない内容もご指導いただけた。（現状分析・問題発見） ・グラフィックデザインⅡでは梅染の魅力を伝えるためのコンセプトを試行錯誤しながら考えることを繰り返した。２年次に修得すべき写真やイラスト、文字原稿を使ったレイアウト技術や表現技術をパンフレット、ポスターの制作を通して学ぶことができた。（問題解決・作品制作） ・グラフィックデザイン応用では梅染めのグッズをデザインした。目的や内容に合わせたグラフィックやグッズを提案した。グラフィック表現の幅を広げ、様々な提案ができる企画力を養った。（問題解決・作品制作） ・中間審査会では、団体担当者に向けプレゼンテーションを行い、現在までの考えを発表・具体的な助言を頂く事で方向性の確認や不足している部分について補うことができた。（プレゼンテーション） ・連携団体からの評価に「説明が丁寧で次の行動に移る期体感を持たせる」、「発想やコンセプトが素晴らしい」、「広く社会に提案している」とのコメントを頂き、今回の課題設定が上手く学生の学修効果へと繋がる結果になった。（外部評価） ・みと・まち情報館にて選抜6名の作品を3/1(水)～3/15(水)の期間展示していただき今回の取り組みを広く周知できた。 ・水戸市教育委員会次世代エキスパート事業と連携することで、小中学生とともにワークショップを行うことで、ターゲットとなる世代を理解することができた。	学修成果の評価 
反省点	・梅染めの魅力を広げるために体験や製品としてどのような方法が良いか、また、今回のターゲットが小中学生という設定で、学生は苦労する部分が多かった。ターゲットの理解を深め、課題解決力を磨いていく指導が求められる。 ・作品展示については学生によって完成度にばらつきが出てしまった。一人一人のモチベーションを上げていく指導がより求められた。	
教務対応担当	荒井校長・川上・飯田	

広告プロモーションデザイン学科3年

企業・団体等 連携課題　実施報告書

2022年度　修了制作

課題名	水戸ホーリーホックGRASS ROOTS FARMのプロモーション企画
レクチャー・視察日 レクチャー対応 レクチャー・視察参加者	2022年7月26日（火）13：30～　レクチャー　本校6F プレゼンテーションルーム 株式会社フットボールクラブ　水戸ホーリーホック　取締役　GM　西村　卓朗様 経営企画室　GM補佐　市原 侑佑様 農業担当 兼 営業部 ホームタウン担当 坂本 裕二 様 講師：岩間琢哉先生、坂本裕二先生、通野崇先生 教務：荒井校長、川上、飯田 広告プロモーションデザイン学科3年　29名
中間審査会実施日 中間審査会参加者 中間審査会発表学生	2022年11月9日（水）13:00～16:10　本校6F プレゼンテーションルーム 連携団体：株式会社フットボールクラブ　水戸ホーリーホック　経営企画室付　新規事業担当　相原　大介様 GRF推進事業部長　兼　C＆L監督　佐野　元則様 農業担当 兼 営業部 ホームタウン担当 坂本 裕二 様 講師：岩間琢哉先生、坂本裕二先生、通野崇先生　　教務：川上、飯田 広告プロモーションデザイン学科　3年　　全員　29名
授業内評価実施日	（地域デザインゼミ） 2023年1月10日（火）13:00～16:10　本校6F プレゼンテーションルーム　　講師：坂本裕二 先生 広告プロモーションデザイン学科　3年　ゼミ専攻全員　5名（5名×1チーム、代表プレゼンテーションで発表） （グラフィックデザイン実践ゼミ） 2023年1月10日（火）13:00～16:10　本校6F プレゼンテーションルーム　　講師：岩間琢也 先生 広告プロモーションデザイン学科　3年　ゼミ専攻全員　12名（12名発表した中から代表プレゼンテーション発表学生4名の選抜） （映像・アニメーションゼミ） 2023年1月10日（火）13:00～16:10　本校6F プレゼンテーションルーム　　講師：通野崇 先生 広告プロモーションデザイン学科　3年　ゼミ専攻全員　12名（12名発表した中から代表プレゼンテーション発表学生4名の選抜）
代表プレゼンテーション実施日 代表プレゼンテーション参加者 代表プレゼンテーション発表学生 受賞者	2023年2月21日（火）14:00～16:00　本校6F プレゼンテーションルーム 連携団体：株式会社フットボールクラブ　水戸ホーリーホック　取締役　GM　西村　卓朗様 経営企画室　GM補佐　市原 侑佑様 GRF推進事業部長　兼　C＆L監督　佐野　元則様 農業担当 兼 営業部 ホームタウン担当 坂本 裕二 様 講師：岩間琢哉先生、坂本裕二先生、通野崇先生 教務：渡邉本部長、荒井校長、川上、飯田 地域デザインゼミ：石橋 美咲、樫村 優花、冨山 奈那子、中野 咲希、萩 ひかり グラフィックデザイン実践ゼミ：鈴木 朱里、鈴木 咲彩、沼田 愛加理、山口 世奈 映像・アニメーションゼミ：安藤 史歩、古舘 立規、太田 愛香、大峰 遥　　選抜　4名＋1チーム（29名中） 水戸ホーリーホック賞：グラフィックデザイン実践ゼミ　山口　世奈（やまぐち　せな） 茨城デザイン振興協議会会長賞：地域デザインゼミ：石橋 美咲、樫村 優花、冨山 奈那子、中野 咲希、萩 ひかり
審査会実施日 審査会参加者 受賞者	2023年2月4日（土）13:30～15:30　本校舎7F　L702教室 審査協力団体：茨城県におけるデザイン団体の代表者　　茨城デザイン振興協議会　会長　佐藤正和　様 本校講師：広告プロモーションデザイン学科担当　14名参加 教育課程編成委員：茨城デザイン振興協議会 倉田 稔之様、いばらき印刷 椿本 学様 Design Farmマゴコロ 西條 友弥子様 学校関係者評価委員：茨城県中小企業団体中央会 近藤哲生様、光和印刷　岡田 寛和様 卒業生代表：デザイン系企業で働く卒業生　3名参加 3年次修了制作部門　最優秀作品賞：沼田 愛加理
作品展示期間・場所	修了制作展（2023年2月4日～12日）本校舎1F ギャラリー
成果の評価	・団体担当者よりGRASS ROOTS FARMや水戸ホーリーホックについてのレクチャーを受け、現状について詳しく知ることができた。また、9/14(水)にはケーズデンキスタジアムで行われたサンクスマッチでワークショップと地元住民へアンケート調査を実施し、様々な意見を収集することができクライアントの理解が深まった。（現状分析・問題発見） ・中間審査会では、GRASS ROOTS FARMの魅力や解決すべき課題をどのように捉えたか団体担当者に向け現在までの考えを報告し、クライアントのリアルな意見をもらえたことで、方向性の確認と共に、実際の仕事で求められる問題解決力を養うことができた。また、中間審査会や代表者プレゼンテーションへの出席や準備も快くご対応いただき、学内だけでは補いきれない内容もご指導いただけた。（問題解決） ・各ゼミナール授業での制作とし、就職先に合わせた技術の修得につながった。企画立案から作品制作、作品展示までトータルに仕上げることができた。（作品制作） ・学生らしい発想で生み出したアイディアを各ゼミナール毎に作品制作しクライアントの求める課題に対し提案ができた。また、企業課題をデザインで解決するアイディアを提案としてまとめるまでの過程を学べた。そして、作品をプレゼンテーションで第三者に伝えることができ、最終学年にふさわしい実践的な学修につながった。（プレゼンテーション） ・連携団体からの評価に「ストーリーからプロダクトまで提案内容がとても良い」、「社会課題を捉えデザインした点が良い」、「目指す世界観とプレゼンテーションの内容や流れが良かった」などのコメントを頂き、デザイナーへの第一歩を踏み出す最終学年として、今回の連携課題から学ぶことが多くあり、学修効果へと繋がる結果になった。（外部評価）	
反省点	・それぞれの提案がより地域のことを考え特色や魅力を表現できるとよかった。 ・グラフィックデザイン実践ゼミでは企画だけでなく、制作物をより充実させると良かった。 ・映像・アニメーションゼミでは動画の特性を理解した上で見ただけでも伝わる作品制作を行う必要がある。また、撮影が必要な場合はスケジュール調整に注意する必要がある。 ・地域デザインゼミでは制作成果をより具体的に展示に表現できると良かった。
教務対応担当	荒井校長・川上・飯田

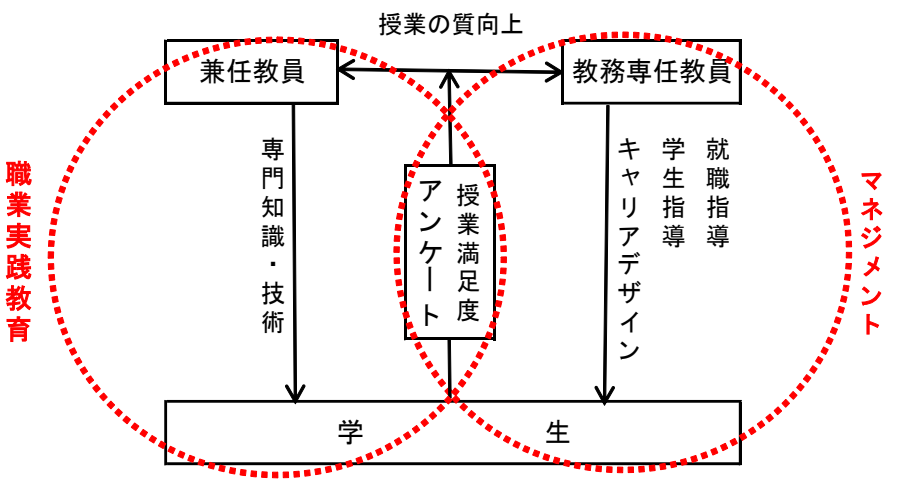
（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
ビジュアルデザイン	感性をトレーニングし、物事の構造を分析理解することで創作を導く考え方を学ぶび、表現する技術へと繋げる。	水戸市ユネスコ協会
グラフィックデザインⅡ	写真やコピーなど様々な素材を融合させたイメージを、コンセプトに基づいてグラフィックデザインとして完成させる。	水戸市ユネスコ協会 水戸市教育委員会　総合教育研究所
グラフィックデザイン実践	デザインのプロセスを踏み、企画と表現が訴求力を持つグラフィックデザインの研究と、得意とする表現方法を研究する。	株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリーホック
映像・アニメーション	映像・アニメーションの原理・技術を学び、Webに応用できるコンテンツ制作技術を身に付ける。編集についてはCM制作に基づいて学ぶ。	
セールスプロモーション	企業の経営を意識した形で企画を練り、販売を促進させる具体物としてのデザインをどの様に活用させ繋げるかを考える。	

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

本校は、下記図のように、実務に関する知識、技術、技能に関しては「プロの兼任教員」が教授し、学生に対する様々な指導、マネジメントに関しては教務専任教員が担当している。



デザインは、教科書的にまとめられる領域は少なく、実務実習型の授業がほとんどである。
従って、授業を受け持つには、例えば、広告デザインの分野では、デザイン構成やＤＴＰ技術はグラフィックデザイナーが教え、カラーコーディネートはその有資格者が教え、Webデザインは、Webデザイナーが教えている。インテリアデザインの分野では、設計製図は一級建築士が教え、インテリアコーディネートはインテリアコーディネーターの有資格者が教え、３ＤＣＡＤ（３次元パース）は建築士の中でも、その技術を習得した者が教える。エクステリアデザインに関しては、造園業にも精通したプロが教えるという具合である。また、本校のファッションコーディネートは流通小売業の分野を学ぶもので、商品知識、接客、仕入れ、ディスプレイ、経理、はもとより、ネイルアート、フラワーコーディネート、ラッピング、雑貨・ファッション小物制作等、それぞれの専門的授業に対して、その分野のプロが授業を受け持つことが必要になる。
専任教員が教えられる領域を、はるかに超える授業内容である。
この様な観点から、本校は、ほとんどの授業においてその分野で活躍するプロの兼任教員が授業を担当し、学生の職業実践的能力を高めている。

また、教務専任教員は、学生指導・就職指導能力を高めるため、企業人事担当者を訪問し人材ニーズを把握するとともに、企画立案及び打合せを通して実践的な指導力を高めている。さらに、キャリアデザインを通してマインド教育や職業人育成に努めている。
プロの兼任教員と教務専任教員が相乗的に教育指導に当たることにより、知識・技術・人材教育をトータルに行う職業教育が可能になっている。

上記の指導体制を基に、「職業に関連した実務に関する知識、技術及び技能についての研修等」は、本校が重要視しているデザインのプロセスを教育するために、企業や行政にご協力を頂き教員が一堂に集まる教員会等で意思の疎通を図りながら組織的及び計画的に取り組み実施している。それぞれの担当する科目の視点よりレクチャーを受けられる機会になっている。
「授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修等」は、企業・外部講師・ハローワークにご協力頂き、組織的及び計画的に受講させるため、年間研修計画のスケジュールに基づき実施している。
また、諸規定等では、年間研修計画により「職業に関連した実務に関する知識、技術及び技能についての研修等」並びに、「授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修等」が、教員に対し必ず受けなければならない研修となっている。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

組織的に位置付けられた研修等の対象、内容、期間について、実務に関する研修等については、企業や行政等との連携を行う授業がメインとなる。内容は、広告デザインの分野においても、デザインのプロセスの部分が重要となる。昨年度の研修では先ず初めに、デザインを考える際には、単なる決められた制作物を作るのではなく、その場所や施設、環境に合った制作物が求められるため、ターゲット層の分析やその施設がどの様に使われているかなどの内容を説明頂いた。次に、デザインはきれいに作るだけではなく、いかに効果的な制作物を作る事が出来るのかが重要であるため完成を見せる前に需要に沿った内容になっているのかを中間的なレクチャーを頂いた。最終的には制作物をアウトプットさせ販促グッツ等はモックアップまで制作し、必要な場合には企画書を用意してプレゼンテーションを実施し、その後のアドバイスを頂いた。期間については、半年間にわたり実施した。

「地域デザインについての研修」
・令和4年7月28日　10:00～
　講師：水戸ユネスコ協会　会長　林和男

・令和4年7月26日　10:00～
　講師：株式会社フットボールクラブ　水戸ホーリーホック　取締役　GM　西村　卓朗
　経営企画室　GM補佐　市原 侑佑
　農業担当 兼 営業部 ホームタウン担当 坂本 裕二

②指導力の修得・向上のための研修等
生徒に対する指導力等については、キャリアデザインに関連する授業が該当する。就職の指導を行うためには企業の事・マナー・履歴書等の描き方・ポートフォリオ(作品集)の制作など多岐にわたる。昨年度の研修では、6月にマナー講座・業界を代表する方をお呼びして業界について講話・8月にハローワークから今の求人情報や施設の利用方法などのレクチャーを実施している。

「企業が求める人材像・企業の就職状況の研修」
・令和4年6月2日　13:00～15:00
　講師:株式会社パブリックアート　取締役　大内　靖

「いじめにあっていた学生、精神的に不安定な学生、発達障害のある学生の個別対応や集団内での対応方法について」
・令和4年6月15日 17:30～19:00
　講師:茨城大学　教育学研究科　教育実践高度化専攻　教授　生越達
「実践的な就職活動方法」

・令和4年6月23日 13:00～14:30
　講師:学校法人リリー文化学園　秘書室　求人担当　長谷川　なおみ

「今般の求人状況と就職活動方法の研修」
・令和4年8月18日　10:00～11:30
　講師:水戸公共職業安定所　学生ジョブサポーター　青天目ゆかり/田端夏絵

文化デザイナー学院　講師会
・令和4年9月16日 10:00～12:00
　講師:株式会社リクルート北関東マーケティング　進学事業部営業　営業第2グループ
　　野原　大五
　　「自己発見プログラム報告」

茨城デザイン振興協議会　デザインセミナー（オンライン）
・令和5年2月14日 17:00～19:00
「人は人の想いに共感すること」
　講演会講師:株式会社グッドパッチ　デザイナー　石井　翔太郎

文化デザイナー学院　講師会
・令和5年3月17日 14:00～16:00
　講師:株式会社リクルート北関東マーケティング　進学事業部営業　営業第2グループ
　　野原　大五
　　「18歳人口の推移と進学に関する調査」「高校生　価値意識調査」「主体性について」

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等
学校が年度当初に教務会議にて年間研修計画を立案し、その後に企業及び行政とデザインとの関連性について協議を重ね、研修等についての時期と内容を講師の授業計画に合わせ調整し決定する。

「地域デザインについての研修」
・令和4年7月28日 10:00～
　講師:水戸ユネスコ協会

・令和4年年7月26日　13:30～
　講師:株式会社フットボールクラブ　水戸ホーリーホック

②指導力の修得・向上のための研修等
学校で決められた年間研修計画に合わせて、担当がキャリアデザインとの関連性について各施設や企業と調整を行う。それぞれの研修等には企画書を作成し目的を明確にさせ実施している。学校ではその様な研修等を行う際には、必ず企画書の読み合せを行い、関係するすべての職員が内容を把握している。

「企業が求める人材像・企業の就職状況の研修」
・令和4年6月2日　13:00～15:00
　講師:株式会社パブリックアート　取締役　大内　靖

「いじめにあっていた学生、精神的に不安定な学生、発達障害のある学生の個別対応や集団内での対応方法について」
・令和4年6月15日 17:30～19:00
　講師:茨城大学　教育学研究科　教育実践高度化専攻　教授　生越達

「実践的な就職活動方法」
・令和4年6月23日 13:00～14:30
　講師:学校法人リリー文化学園　秘書室　求人担当　長谷川　なおみ

「今般の求人状況と就職活動方法の研修」
・令和4年8月18日 10:00～11:30
　講師:水戸公共職業安定所　学生ジョブサポーター　青天目ゆかり/田端夏絵

文化デザイナー学院　講師会
・令和4年9月16日 10:00～12:00
　講師:株式会社リクルート北関東マーケティング　進学事業部営業　営業第2グループ
　　野原　大五
　　「自己発見プログラム報告」

茨城デザイン振興協議会　デザインセミナー（オンライン）
・令和5年2月14日 17:00～19:00
「人は人の想いに共感すること」
　講演会講師:株式会社グッドパッチ　デザイナー　石井　翔太郎

文化デザイナー学院　講師会
・令和5年3月17日 14:00～16:00
　講師:株式会社リクルート北関東マーケティング　進学事業部営業　営業第2グループ
　　野原　大五
　　「18歳人口の推移と進学に関する調査」「高校生　価値意識調査」「主体性について」

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校は、「専門学校における学校評価ガイドライン（平成２５年度文部科学省策定）」を踏まえ、学校教育活動や学校運営の状況について企業や業界の役員又は職員並びに卒業生の方に参画頂き、自己評価の結果を評価することを基本として、学校関係者評価の実施及び公表を行い、教育活動や学校運営の改善に取り組むことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	Ⅰ教育理念　Ⅱ教育目標　Ⅲ教育方針　Ⅳ年度目標
(2)学校運営	Ⅰ学校運営の方針　Ⅱ授業計画　Ⅲ学校組織のありかた　Ⅳ意志決定のプロセス　Ⅴ業務の効率化
(3)教育活動	Ⅰ学科編成における全学科を通しての共通な特徴　Ⅱ各学科の概要　Ⅲカリキュラム　Ⅳ単位認定・成績評価の考え方　Ⅴ資格取得・国家資格に向けた授業　Ⅵ業界との協力体制　Ⅶ企業・団体等連携授業　Ⅷ業界からの授業成果に関する協力　Ⅸ修了制作展　作品の展示　Ⅹ実践的な職業教育（インターンシップ）
(4)学修成果	Ⅰ就職指導の全体方針　Ⅱ就職目標設定と2021年度報告　Ⅲ就職に対する本校の特徴　Ⅳ就職指導体制
(5)学生支援	Ⅰ学生支援体制
(6)教育環境	Ⅰ施設・設備状況　Ⅱ防災・災害に対する対応　Ⅲ保険の加入
(7)学生の受入れ募集	Ⅰ募集の動き　Ⅱ広報媒体　Ⅲ募集体制　Ⅳ学費
(8)財務	Ⅰ財務
(9)法令等の遵守	Ⅰ個人情報の保護　Ⅱ学校自己点検・自己評価　Ⅲ学生作品と著作権の問題
(10)社会貢献・地域貢献	Ⅰ企業・団体等連携の成果　Ⅱ企業・団体等連携の一覧
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

2022年度　学校関係者評価委員会の活用状況

学校関係者評価委員会等の意見	活用状況
◆意見項目 評価基準1 教育理念・目的	随時対応 対象：全学科全学年 授業：
①（近藤委員）時代の変化に即した授業が行われている。 ②（岡田委員）理論立てて説明できるよう講師の勉強会や入れ替えを積極的に行っている。常に見直しを図る姿勢が学生募集増に繋がっていると感じた。 ③（髙松委員）新しいことに対しての取り組みが良い。 ④（棚井委員）講師の人選も含め細やかな授業ができる様にカリキュラムを組んでいるところが評価できる。 ⑤（関根委員）環境の変化への迅速な対応が今後のポイントになると思う。	コロナ以降社会に大きな変化が起こっていることは間違いない。それに伴ってこれから各業界で求められる技術や人材像も変わるので動向を調査・分析し、教育内容に反映させなければ淘汰されてしまう時代になっていると危機感を抱いている。本学の「いつもあたたかく　いつもあたらしく」という理念を忘れず、常に課題点を意識し変化を恐れずチャレンジしていかなくてはならない。2021年度の事業目標としてチャレンジを掲げ、学校としてもそれぞれの職員もチャレンジに取り組んだ。そのような取り組みが学生募集にもつながったのではないかと思う。次年度も各分野でAI、VR、アバターなど注目すべきキーワードがあり情報収集に努めていきたい。そして、2022年度は教育方針である「文化デザインマインド」がどれだけ浸透したかをまとめる年度として位置付けている。そのまとめた内容を講師会で伝達しその結果によって今後の方針を打ち出していきたい。
◆意見項目 評価基準2 学校運営	◆引き続き対応 対象：学校運営・全学科全学年 授業：
⑥（髙松委員）データ管理、スケジュール管理をシステムの運用することで時短に繋がっていると感じた。 ⑦（棚井委員）職員の出退勤や代休取得など計画通りに進めている事は非常に評価できる。 ⑧（関根委員）コンプライアンスの徹底は一人ひとりの責任感が必要となるので、全員が気を使ってほしい。 ⑨（阿久津委員）働きやすい環境が良い教育を提供できると思う。管理システムが整ったことは良い事だと感じた。	2020年の働き方改革以降、労務環境をこれまでと大きく改革し2021年度も改善しながら継続することができた。業務管理ツールについては、経験の浅い職員でも使えるように使い方の見直しをするなど改善を図った。繁忙期などは業務が重なりさらなる工夫が求められる。また、代休の取得などでスタッフ全員が顔を合わせる時間も限られてくることから情報共有や意思疎通を図る部分ではさらに工夫が必要であると感じている。人材の確保の面からも働きやすい環境づくりに取り組むことは今後も重要であると考えている。
◆意見項目 評価基準3 教育活動	◆即対応 対象：学校運営・講師 授業：
⑩（近藤委員）業界の連携・協力体制をさらに強化するとよい。 ⑪（岡田委員）映像・アニメーションやSNS等の広告宣伝、販売方法など時代に合わせた教育内容・学科編成を常に考えている。満足度アンケートの不満に対する具体的な回答がないところがいくつか見られた。アンケートが改善に繋がっていることを学生に伝えることで多くの意見を集められるのではないか。 ⑫（竹越委員）映像・アニメーション、動画編集の考え方、技術はWEBでも広告でも広く必要とされている。学生のうちから学んでおけるのは非常に役に立つと思う。 ⑬（髙松委員）授業アンケートは講師のモチベーションにも繋がると思う。 ⑭（棚井委員）将来を見据えた専門知識と技術の基礎を身に付けるため、段階を踏んだ適切なプログラムが組まれている。 ⑮（関根委員）伝えるではなく伝わるが出来る教員が多くなれば多くなるほど充実すると思う。 ⑯（阿久津委員）外部実習をより多くできると就職後では体験できないことを学べるので良い。	⑩⑯ 業界との連携として、2022年度からはインテリア＆家具クラフト学科では年間を通してインターンシップの授業を新規で開設する。企業で実務に携わる経験を通して、社会に出た時の職種の多さや面白い仕事がある事に気づき、将来の可能性を広げられることを願う。 ⑪⑬ 授業アンケートは学校運営を評価・改善するツールとして重要なものと認識している。アンケートという性質上、匿名で実施しているため、個人に対するフィードバックは難しさもあるが、クラスまたは学校全体として問題がある点は半期ごとに集計するアンケートに対して対応をとっている。そして、改善に取り組んだ内容についてはクラスへ連絡を行い、学生へフィードバックしている。また、非常勤講師にとっても学生の声は授業の改善やさらに充実を目指す意味でもモチベーションに繋がっている。 ⑫⑭ カリキュラムの変更には講師の確保や時間割の変更など調整に時間がかかるので、コロナ禍で社会が様々な面で変化している中で、学生たちが学ぶべき内容に関する情報収集には気をつけていたい。 ⑮ 教務職員に求められる資質も事務処理力に限らず、目的や意味が学生に伝わる教育力がますます求められていると感じる。研修などを通して、人材育成を行っていくこともより重要だと考える。また、問題を抱えて入学してくる学生が増えてきている。その状況が変わらない限り、学校の対応力をつける必要があり準備を進めている。

◆意見項目 評価基準4　修学成果	◆引き続き対応 対象：学校運営・全学科全学年 授業：就職活動に関わる授業
⑰（岡田委員）見学先の企業が増えているように感じた。実際に行って自分の目で見て聞くことは非常に価値がある。今後もっと増やしてほしい。 ⑱（竹越委員）コロナ禍において会社見学やインターンも例年以上に厳しいことも多いと思うが、就職率が高いのは学校と学生の努力を感じる。 ⑲（髙松委員）コロナ禍で精神的に弱っている学生のサポートが素晴らしい。学生の価値観や才能、情熱、やりたいことを伸ばしている。 ⑳（棚井委員）学校側は学生の意識向上のためにあらゆる努力をしているが、資格取得に対して学生側の意識向上が課題。もっと意識が高くなることを期待したい。 ㉑（関根委員）社会人とは、という基本的な事をもっと指導してほしい。 ㉒（阿久津委員）デザイン力はこれからも必要とされるスキルであるため、就職活動でも生かされていると思う。	⑰ 2年次に実施している企業見学会では学生の希望に合わせて細分化して見学先を調整している。コロナ禍で対面での受け入れが企業によっては難しい場合もあるがオンラインも使ってできる限り多くの企業の受け入れを今後も実現していきたい。 ⑱㉑㉒ コロナ禍で年間の求人数は若干減少傾向であるが、求人倍率は学生数の3倍以上となっている。デザインが世の中から求められていることを感じるが、アパレル系、グラフィックデザイン事務所系など一部の業種では厳しさも感じている。学校側の企業開拓ももちろん必要だが、学生が自らアプローチしてインターンシップなどを通して採用に繋がることもあるため、どのような状況でもしっかりと目標を持たせて就職活動ができるよう学生指導をしていきたい。また、学生達のモチベーションを上げる取り組みを計画している。学生達のやりたい事を明確にして、社会人になった時に最も大切である、どんな仕事をやってみたいかという気持ちを持たせる試みを行っていく。 ⑲ 入学者の増加に伴ってさまざまなバックグラウンドを持つ学生も増えてくると予想される。精神的な病気やいじめ、不登校の経験などがあるが、そのような学生の対応にはどうしても時間を要することが多く、しっかりとした対応が求められる。また、限られた時間の中で退学を防止する対応力も必要なため教務職員に対する研修会を実施した。今後も状況を見て引き続き検討していきたい。また、対応する教務職員にも負担が大きいため、教務部全体として対応をとっていきたい。 ⑳ 資格取得に関しては、各クラスで受験対策講座を設け合格を目指していく。授業内での講義はもちろん、キャリアデザインの授業や放課後を使い過去問題に取り組むなど教務部も協力できる体制をとっている。合格につながるカリキュラムをしっかり構築することはもちろんだが、学生のモチベーションを上げることも重要な要素である。資格取得の目的は色々あるが、自信を持つことや就職活動に活かすなど学生に合わせて考えていかなくてはならない。また、クラスの雰囲気作りも大切であり、一生懸命取り組む学生のモチベーションをクラス全体に波及していきたい。過去の経験でもクラス全体で合格を目指し学生同士が教え合う姿の見られるクラスは全体的に合格率も上がってくる。
◆意見項目 評価基準5　学生支援	◆継続的に対応 対象：学校運営全学科全学年 授業：
㉓（近藤委員）就職率は良いが定着率はどうか ㉔（竹越委員）オンラインで授業に参加できる対応は素晴らしい。細かいサポートは大変かと思うが、学生には心強いと思う。 ㉕（髙松委員）コロナ対策も万全を期しておりオンライン授業なども充実している。 ㉖（棚井委員）全ての学生を学校側で把握することは難しいが、ボランティア等の地域活動は希望者だけではなく、他に対策が取れれば退学者も減らせるのではないか。	㉓ 卒業生が就職した企業に対しては訪問を行い、職種内容や学生と企業のマッチングの確認を行っている。そして、教務職員も今後の就職指導にいかしている。残念ながら早期離職をしてしまう卒業生もいるが、理由としては職場の人間関係が大きいのではないかと思う。社会人としての心構えはしっかりと指導を行っているが、それでも思い描いていたイメージとのギャップを埋められないケースがあるのではないか。就職指導の段階から目先の内定獲得に囚われすぎずにしっかりと学生自身も適性に合った企業を選択できるよう指導していくことも必要である。そして、教務職員も長い将来を見据えたキャリア指導を行う必要がある。また、悩んでいる卒業生も気軽に学校に相談に来ることができるような学校づくりを心がけていきたい。 ㉔㉕ コロナ感染対策も日々状況が変わっており、そのときの状況に合わせて学生の学修機会の確保に努めている。本校の傾向として家族感染によって濃厚接触者に該当し自宅待機となる事例が増えてきたため、授業を自宅でオンライン視聴できるよう対応をするなど適宜迅速に対応がとれたことは良かった。状況に合わせた柔軟な対応をとっていきたい。 ㉖ 学校では様々なコンペに参加できる機会を設けている。学校の授業の中で行う課題だけではなく、企業や行政の方に来校頂き、説明会のような場面を設けて、学生に向けてレクチャーを行って貰うなど学生がチャレンジできる機会を作り、モチベーションを上げる事に努めている。
◆意見項目 評価基準6　教育環境	◆継続的に対応 対象：学校 授業：
㉗（岡田委員）地下ショップで学生が制作したものを販売できることは満足度向上に繋がると思う。運営は大変だと思うが、色々な実験も行ってほしい。 ㉘（竹越委員）大型モニターの導入は映像の授業もあるので見やすくて良いと思う。 ㉙（髙松委員）施設設備の改善、防災に関しても整備を進めている。 ㉚（棚井委員）防災面の整備も長期計画的に整備を実施していくことは評価できる。 ㉛（関根委員）防災も天気や地震など察知できないこともあると思うので十分に整備してほしい。	㉗ 現在はリメイクの販売が中心だが、コーディネートを学生が考えSNSでPRして販売につなげることや地域のクリエイターの作品を募集するなど様々な発展が考えられる。2021年度は店舗立ち上げの年だったが、次年度はさらに特色ある場所となるよう運営を行っていきたい。 ㉘㉙㉚㉛ 学習内容や学生数の変動に伴い施設環境も整備をしていかなければならない。大型モニターはこれまでプロジェクターが設備の中心だったが、視認性や教室の照度を保てる点からも学習効率が上がるのではないかと考えている。また、防災対策に関しても2F・3Fが整備できた。上層階も引き続き計画に従い推進していく予定である。さらには、学生作品を展示するスペースも新しく什器をそれぞれの作品に合わせて配置し、学生がいつでも見られるような環境を作ったのと同時に、高校生らが見学を行いやすい環境も整えた。
◆意見項目 評価基準7　　学生の受け入れ募集	◆継続的に対応 対象：学校 授業：
㉜（棚井委員）誇張せず本来の姿をダイレクトに伝える広報を目指している姿勢は評価できる。	㉜ コロナ禍では高校生の進路決定の流れも変わってきている。これまでは複数校のオープンキャンパスに参加して進路を検討していたが、今は1、2校と言われている。その候補に入ることができなければ志望校になることができない。高校生にはたくさんの情報が集まるので、学校案内やホームページの印象でダイレクトに本校の特色やイメージを伝えることはとても重要であり、重要な広報媒体として制作に取り組んでいる。その成果もあり2022年度の入学生はここ数年では一番多い学生を迎え入れた。また、2022年度はInstagramやジオターゲティング広告などのSNSを中心とした新しい広報にも取り組んでいる。
◆意見項目 評価基準8　財務	◆継続的に対応 対象：全学科全学年 授業：
㉝（近藤委員）リカレント教育は有意義である。これまで以上に周知すると良い。 ㉞（棚井委員）地域に根付いた信頼できる学校として、これからも発展するために入学生の確保に向けて努力している	㉝㉞ 2021年度もファイナンシャルミーティングが定期的に実施され、予実管理を行っている。感染症対策のための衛生費の増加や海外の情勢による物価の高騰など支出の増加に対しても注視していかなくてはならない。学校単体で見ると、かなり健全な財務状況を保っている。

◆意見項目 評価基準9 法令等の遵守	◆継続的に対応 対象：全学科全学年 授業：
㉟（近藤委員）弁護士や弁理士による授業があってもよいのではないか。 ㊱（岡田委員）インターネット購入画像の無断使用などがニュースになることがあった。悪意がなくても事故事件に巻き込まれることがあるので、企業も学生も勉強が必要だと強く感じる。 ㊲（髙松委員）情報が錯綜している世の中なので著作権は難しい。勉強は必要。 ㊳（関根委員）学生には難しいかもしれないが、著作権については十分に教えてほしい	㉟㊱㊲㊳　教育の範囲の著作権の取り扱いとビジネスにおいては違いも多く、学生時代の感覚で実務に携わってしまうとクライアントや自社が大きな損害を被ることにも繋がる。著作物の取り扱いについては、各授業で触れる部分もあるが、学習の機会が必要であることを改めて認識していかなくてはならない。教育の情報化に対応した平成30年著作権法改正の理解も図っていきたい
◆意見項目 評価基準10 社会貢献・地域貢献	◆継続的に対応 対象：学校 授業：
㊴（近藤委員）さらに自治体や業界団体等との連携を強化してほしい。 ㊵（竹越委員）学校の外から評価を受ける事は学生のモチベーションにも繋がり思わぬ発見もある。地域のコンペやイベントの参加は学びが多いので、これからも沢山参加してほしい。 ㊶（棚井委員）修了制作として地域と連携しての制作発表はとても良い取り組みなので続けてほしい。 ㊷（関根委員）社会貢献、地域貢献が出来ていると思うので、今後も継続してほしい。 ㊸（阿久津委員）県や市町村からの依頼が多くなり、この実績が学生受入れの際に保護者へのアピールになると思う。	SDGsや地域の持続について学ぶ機会が増えたことで関心を持つ高校生も増えて来ていると感じる。その様な中で授業の取り組みの一つとして建設現場などで残ったコンクリートでプランターをデザインしてみたり、地元アパレル企業との連携で、衣料ロスとして発生した商品を新しく生き返らせる試みで、ファッションリメイクを行ってみたりと環境問題には前向きに取り組んでいる。このような地域との連携は本校の大きな特徴に挙げられる。そして、地域に貢献する人材を育成する上でも欠かせない学習内容だと考えている。また、これまでに多くの自治体と活動を行ってきたことが評価にもつながってきている。2022年度には茨城県が主催するまちづくりに関する講演会の講師依頼をいただいている。そのような機会がまた次の連携にもつながることを期待したい

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
近藤　哲生	茨城県中小企業団体中央会	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	業界団体
岡田　寛和	株式会社光和印刷	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	企業等委員
竹越　萌野	アセビデザイン	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	卒業生
丸山　久	水戸ステーション開発株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	企業等委員
住谷　強生	株式会社ジェイディーアールスミヤ	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	企業等委員
髙松　啓士	有限会社メイクス	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	卒業生
棚井　政江	茨城インテリアコーディネーター協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	業界団体
関根　貴雄	株式会社関根工務店	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	企業等委員
阿久津　裕司	株式会社根本建築設計事務所	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））・ 令和5年7月31日
URL: www.bunka-gakuen.ac.jp

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
本校は、基礎的情報をはじめ、本校の特色、教育活動の状況やその成果・実績、また学校運営の状況に関する情報を積極的に企業等関係者に提供することを通し、本校教育の意義・役割等に対する理解を深め、学校内外の実習、就職指導など企業等との連携による活動の充実や、業界のニーズを踏まえた人材育成に向けての教育内容のさらなる充実に取り組むことを基本方針とする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	Ⅰ学校の教育・人材の育成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色　Ⅱ校長名、所在地、連絡先等　Ⅲ学校沿革、歴史　Ⅳその他諸活動に関する計画
（2）各学科等の教育	Ⅰ広告プロモーションデザイン学科　Ⅱファッションビジネス学科・ファッション＆ブライダルビューティ学科　Ⅲ建築設計デザイン学科・インテリア＆家具クラフト学科
（3）教職員	Ⅰ教職員数　Ⅱ教職員の組織　Ⅲ教員の専門性 兼任講師一覧
（4）キャリア教育・実践的職業教育	Ⅰキャリア教育・就職支援への取組状況　Ⅱ実践的職業教育 実習・実技等の取組状況
（5）様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況と課外活動　Ⅱ教育環境について
（6）学生の生活支援	Ⅰ学生支援の取組状況
（7）学生納付金・修学支援	Ⅰ学生納付金　Ⅱ奨学金について
（8）学校の財務	Ⅰ監査報告書　Ⅱ貸借対照表　Ⅲ収支計画書
（9）学校評価	Ⅰ自己評価・学校関係者評価の結果　Ⅱ評価結果を踏まえた改善方策
（10）国際連携の状況	Ⅰ国際交流　Ⅱ留学生の受入れ（出願資格・出願書類）
（11）その他	Ⅰ学則　Ⅱリリーアカデミーグループに関する情報

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL:www.bunka-gakuen.ac.jp

授業科目等の概要

（産業デザイン専門課程広告プロモーションデザイン学科）　２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デジタルイラストレーション	Adobe Photoshopの基本操作を習得し、ビットマップ画像の概念や画像加工技術の基礎を学ぶ。	1前	60	2		○		○			○	
○			デジタルイラストレーション	Adobe Photoshopの基本操作を習得し、ビットマップ画像の概念や画像加工技術の基礎を学ぶ。	1後	60	2		○		○		○		
○			平面構成	グラフィックデザインの基礎となる2次元的な形態認識とレイアウト(配置)感覚、平面表現技法のトレーニング。	1前	60	2		○		○			○	
○			デザインコンセプトⅠ	デザインに必要な「考える」ことの手順や方法をトレーニングし、コンセプトの重要性を理解する。	1通	60	4	○			○			○	
○			デザイン発想	デザインの基礎となるものづくりに対する意識を高め、発想力を身に付ける。	1前	60	2		○		○			○	
○			デザイン発想	デザインの基礎となるものづくりに対する意識を高め、発想力を身に付ける。	1後	60	2		○		○		○		
○			ビジュアルデザイン	感性をトレーニングし、物事の構造を分析理解することで創作を導く考え方を学ぶ び、表現する技術へと繋げる。	1通	120	4		○	△	○	○		○	○
○			色彩理論	色彩心理に基づく科学的な配色計画の基礎知識、「A・F・T色彩検定試験3級」対応授業	1前	30	2	○			○			○	
○			レタリング	書体（デザインのための文字）の形態認識とレイアウト感覚のトレーニング・「レタリング技能検定」対応授業	1通	60	2		○		○			○	
合計				科目	単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（産業デザイン専門課程広告プロモーションデザイン学科）　２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			PCリテラシー	基本的なPCの操作や知識と共に、一般文書作成（Word・Excelなど）の基礎について学ぶ	1前	30	1		○		○			○	
○			ＤＴＰ演習	Adobe Illustratorの基本操作を習得し、印刷のプロセスを踏まえた紙媒体・印刷データの基礎知識を学ぶ。	1通	120	4		○		○			○	
○			デッサンⅠ	デッサンの基礎技術を身につけるとともに、物を見てその形態を認識する力を養う。	1前	60	2		○		○			○	
○			デッサンⅠ	デッサンの基礎技術を身につけるとともに、物を見てその形態を認識する力を養う。	1後	60	2		○		○		○		
○			立体構成	平面表現技法を発展させ、3次元的な形態認識と立体表現まで幅を広げた表現技法を学ぶ。	1後	60	2		○		○		○		
○			色彩理論特講	A・F・T色彩検定3級合格に向けた特別講義	1後	30	2	○			○			○	
○			デザインの配色計画	色彩理論や目的に基づく配色計画を様々なデザインに応用することを実践的に学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			WEB リテラシー	Webページ制作をするために必要なHTML・CSSの基礎やインターネットのしくみについて学ぶ。	1後	30	1		○		○			○	
○			ポートフォリオ	クオリティーの高い作品制作を目指し、作品集を整備する事で就職を勝ちとる。	1後				○		○		○		
合計				科目	単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（産業デザイン専門課程広告プロモーションデザイン学科）　２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアデザインⅠ	自己のアイデンティティを再確認し、将来の専門分野での適性を考える特別年間プログラム。	1通	60	4	○			○		○		
合計				科目	単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（産業デザイン専門課程広告プロモーションデザイン学科）　２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			文章構成	自分の考えを論理的にまとめ、説得力のあるプレゼンテーションなどができる文章力を身につける。	2前	30	2	○			○			○	
○			デザインコンセプトⅡ	デザイン表現全体の基本となるコンセプト（考え方）と発想法を学び、プレゼンテーションまで実践的に学ぶ。	2通	120	8	○			○			○	
○			写真・雑誌構成	グループ制作による雑誌媒体のコンセプトワークや制作のプロセスを通して、雑誌の運営全体を捉える。	2後	60	2		○		○			○	
○			写真構成	グラフィックデザインで重要な要素となる写真についての基本をマスターし、撮影から加工技術まで習得する。	2通	60	2		○		○			○	
○			デザインスタイル演習	デザイン史におけるデザインの源流に触れ、演習を通して構成力・発想力をつける。	2通	120	4		○		○			○	
○			デッサンⅡ	より高いデッサン力を身につけると共に、構図やレイアウトなどデザインを意識した応用デッサンを学ぶ。	2通	120	4		○		○			○	
○			グラフィックデザインⅡ	写真やコピーなど様々な素材を融合させたイメージを、コンセプトに基づいてグラフィックデザインとして完成させる。	2通	120	4		○	△	○	○		○	○
○			グラフィックデザイン応用	考えてデザインを構築する力とグラフィックデザインを重複させ一つのデザインにまとめる事を学ぶ。	2通	120	4		○	△	○	○		○	○
○			ＷＥＢレイアウト	Webページ制作に必要なHTMLレイアウトや基礎知識と、効果的な表現方法を学ぶ。	2通	120	4		○		○			○	
合計				科目	単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（産業デザイン専門課程広告プロモーションデザイン学科）　２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			映像・アニメーション	映像・アニメーションの原理・基本的な技術を身につけ、人を惹きつけ共感できるストーリーの作り方を学ぶ。	2通	120	4		○		○			○	
○			コピーライティング	デザインのプロセスを考えながらものごとの本質を捉え、訴求力のあるコピーを導き出す手法を学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
○			キャリアデザインⅡ	社会の中でのアイデンティティを再発見し、将来の専門分野での進路への手がかりを得る。	2通	60	4	○			○		○		
合計				科目	単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（産業デザイン専門課程広告プロモーションデザイン学科）　２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		地域デザイン（ゼミ）	資源を活かした魅力の創出や発信を意識した企画、販売等を促進させる具体物としてのデザインを考える。地域の問題を広い視点で捉え、地域を豊かにする課題解決のプロセスを学ぶ。	3通	120	4		○	△	○	○		○	○
	○		映像・アニメーション（ゼミ）	映像・アニメーションの原理・技術を学び、Webに応用できるコンテンツ制作技術を身に付ける。編集についてはCM制作に基づいて学ぶ。	3通	120	4		○	△	○	○		○	○
○			広告イラストレーション	表現力の応用として、クライアントを意識し訴求力のある広報を可能にするイラストレーションを考える。	3通	120	4		○		○			○	
○			DTP演習応用	Adobe Indesignの基本操作を習得し、雑誌などページ物全般の基礎知識と制作のプロセスを学ぶ。	3通	60	2		○		○			○	
○			デザインコンセプトⅢ	メディアの特性を理解し、ユニット形式で調査・分析・提案というプロセスを実践することで、企画力と人間力を高める。	3通	120	8	○			○			○	
	○		グラフィックデザイン実践（ゼミ）	デザインのプロセスを踏み、企画と表現が訴求力を持つグラフィックデザインの研究と、得意とする表現方法を研究する。	3通	120	4		○	△	○	○		○	○
○			WEBデザイン	Adobe Dreamweaverの基本操作を習得し、基本的なページ構成の知識とWebの特性を理解したうえで、ビジュアル化された企画書作成・提案ができる力をつける。	3通	120	4		○		○			○	
○			ウェブデザイン検定対策	「ウェブデザイン技能検定試験3級」対応授業。	3前	60	2		○		○			○	
○			ウェブデザイン検定対策（WEBコンテンツ）	Webで使用されるFlashやjavascriptについて学ぶ。またweb用ポートフォリオや架空店舗のサイトを制作することで構成力を身に付ける。	3後	60	2		○		○			○	
合計				科目	単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
選択必修授業は学年で１つ以上履修する事	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（産業デザイン専門課程広告プロモーションデザイン学科）　２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職活動日	ポートフォリオの作成、企業研究、企業見学、インターンシップ等、就職に向けての活動を通して社会人になる自覚と責任感を養う。	3通	120	8	○			○		○		
○			キャリアデザインⅢ	社会人としての意識やマナーを身に付け、デザイナーとしての将来計画を考える。	3通	60	4	○			○		○		
合計				４２科目	３２１０単位時間（１３２単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
選択必修授業は学年で１つ以上履修する事	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。